

令和元年第15回

荒川区教育委員会定例会

令和元年8月9日

於) 304会議室

荒川区教育委員会

令和元年荒川区教育委員会第15回定例会

- | | | |
|--------|--|---|
| 1 日 時 | 令和元年8月9日 | 午後1時30分 |
| 2 場 所 | 304会議室 | |
| 3 出席委員 | 教 育 長
教育長職務代理者
委 員
委 員
委 員 | 高 梨 博 和
坂 田 一 郎
小 林 敦 子
繁 田 雅 弘
長 島 啓 記 |
| 4 出席職員 | 教 育 部 長
教 育 総 務 課 長
指 導 室 長
教育センター所長
書 記
書 記
書 記
書 記
書 記 | 三 枝 直 樹
山 形 実
瀬 下 清
飯 田 秀 男
大久保 和 彦
寺 本 英 雄
小 川 綾 一
早 坂 利 春
宮 島 弘 江 |

(1) 審議事項

議案第 2 2 号 令和 2 年度から使用する小学校教科用図書の採択について

議案第 2 3 号 令和 2 年度に使用する中学校教科用図書の採択について

議案第 2 4 号 令和 2 年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について

(2) その他

教育長 定刻の1分前になりました。本日の教育委員会を始めるに当たりまして、本日は傍聴者の方がいらっしゃいます。事務局職員の方、傍聴される方をどうぞ呼びください。

〔傍聴者入室〕

教育長 審議に先立ちまして、傍聴者の方々に申し上げさせていただきます。皆様にお配りいたしました傍聴券に記載の注意事項をよくお読みいただきまして、傍聴中において発言などにより議事を妨げることはないようお願いを申し上げます。

それでは定刻になりましたので、ただいまから荒川区教育委員会令和元年第15回定例会を開催いたします。

初めに出席委員数の御報告を申し上げます。本日5名全員の出席でございます。

本日の会議録の署名委員につきましては、坂田委員、繁田委員の御両名にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

5月24日開催の第10回定例会の議事録につきましては、前回の定例会にて配付させていただき、この間、前教育委員の方も含めて御確認をさせていただいたところです。本日、委員の皆様から御意見等がなければ、承認とさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

教育長 それでは承認といたします。

本日の議事日程に従いまして、ただいまより議事を進めます。本日は審議事項3件となっております。

初めに、議案第22号「令和2年度から使用する小学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

荒川区教育委員会では、4月12日に開催した定例会におきまして、今回の小学校教科用図書の採択方針及び手続を確認いたしました。また7月19日に開催しました定例会では、選定調査会からの報告を受けたところでございます。

この間、委員の皆様による調査研究のほか、2回にわたる勉強会を開催し、各者の教科用図書の「編集趣意書」や東京都教育委員会による「教科書調査研究資料」などの資料ですとか、教科書展示会におけるアンケート、区民の方や先生方のアンケートなども参考にして、審査、研究に取り組んでいただいております。

本日は、それらの調査研究の結果を持ち寄りまして、それぞれの教科について採択を行いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

まず初めに、指導室長より議案の説明をいたします。それでは指導室長、お願いします。

指導室長 それでは議案第22号「令和2年度から使用する小学校教科用図書の採択について」

御説明を申し上げます。

文部科学省より示されております「小学校用教科書目録 平成32年度使用」に掲載されております60種類の教科書の中から、11教科13種目について、それぞれ1種類の教科用図書を荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づきまして、御採択いただきます。

調査の経過につきまして御報告を申し上げます。先ほども申し上げました荒川区立学校教科用図書採択要綱に基づきまして、5月29日に教科用図書選定調査会を設置いたしました。この選定調査会は、学識経験者、地域関係者、保護者、学校関係者の計8名で組織され、全3回の協議を通して、すべての教科用図書に関しまして調査研究を行いました。この間、選定調査会から各教科に関し専門性の高い本区の小学校長及び教員により組織される教科専門部会に調査を依頼いたしまして、その報告を受け、その内容を参考にしながら具体的な調査研究をまいりました。机上に配付させていただきました「令和2年度使用小学校教科用図書選定調査会調査研究報告書」に調査研究をまとめさせていただいております。

また、広く区民の皆様や各学校の教員等に直接教科書を見ていただき、たくさんの意見をいただくため6月4日から27日まで、荒川区立教育センター内で令和2年度使用小学校教科用図書見本展示会を行いました。それに加え、6月10日から14日と6月17日には、荒川区立第九峡田小学校と荒川区立第三日暮里小学校、6月19日から6月21日と6月24日から26日まで、荒川区立汐入東小学校と荒川区立尾久小学校、以上四つの小学校でも令和2年度使用小学校教科用図書見本展示会を行いました。

その間、延べ504名の入場者があり、450名の方からアンケートの回答をいただきました。このアンケートにつきましては、事前にお渡しをさせていただいております。

これら「令和2年度使用小学校教科用図書選定調査会調査研究報告書」及び教科用図書見本展示会のアンケートを参考にいただきながら御審議をいただき、採決につきましてよろしくお願いを申し上げます。

以上でございます。

教育長 ただいまの説明のとおり、採択の対象は11教科13種目となっております。議案書に記載の順番にのっとって審議、採決を行い、決定してまいりたいと存じます。審議、採決の方法は種目ごとに事務局より改めて調査内容の報告を受けた後に、各委員より報告内容に対する質疑、あるいは各者の教科用図書に対する意見、候補とすべき図書の推薦などについて御発言をいただき、協議をさせていただく中で、最終的に大方の方向がまとまったと判断された段階で採決に移らせていただきます。

最終的に委員の意見が分かれ、複数の候補が残った場合には、その複数の候補について議案に記載されている発行者の順に、その発行者の図書がふさわしいと判断される委員に挙手

をしていただくという形で採決したいと考えてございます。

その場合、本日の出席委員が5名ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条の規定により、過半数の3票を獲得した発行者の図書を採択することとなります。いずれの教科用図書も3票に達しない場合は、他の教科、種目の採択を進めまして、議案の最後の種目が終了した段階で、再度審議、採決を行います。

なお退席などにより委員が4名となり、可否同数となった場合は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条の規定によりまして、教育長である私が決定させていただきます。よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 皆さんの同意が得られましたので、そのように取り扱うことといたします。

それでは教科「国語」、種目「国語」から順に審議、採決とさせていただきます。

初めに指導室長より「国語」について説明をお願いします。

指導室長 それでは教科「国語」、種目「国語」から御説明を申し上げます。

「新しい国語」、東京書籍でございます。内容につきましては、国語科で育む資質、能力、言葉の力として、その単元で学ぶことをまとめております。学習活動につきましては、巻頭や各単元の冒頭に、学習の進め方や学習の見通しがあり、学習過程が理解しやすくなっております。2年生（下）では、荒川消防署汐入出張所の写真が載っております。

次に「みんなと学ぶ小学校国語」、学校図書でございます。内容につきましては、「言葉の泉」と「言葉の決まり」、「季節の便り」で語彙指導を充実しております。学習指導につきましては、読むことの教材文の後には「学習の手引」として、その単元で学び進めていく上での適切な学習過程がわかりやすく示されております。

次に「ひろがる言葉 小学国語」、教育出版でございます。内容につきましては、学習の進め方を示す部分では子どものつづやきを多く記載し、考え方の手助けとなっております。学習指導につきましては、読むことの教材文の後に学習の流れを示す表現が「確かめよう」、「広げよう」まで統一されており、見通しを持って学習を進めることができます。

次に「国語」、光村図書出版でございます。内容につきましては、学習指導要領に新設された情報の扱い方について明確に盛り込まれております。学習指導につきましては、読むことの教材では教材文の後に「とらえよう」、「深めよう」、「まとめよう」、「広げよう」と学習過程が明確に表示されております。荒川区の小学校と荒川区立図書館の写真が載っております。

以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

教育長 それでは、審議に移らせていただきます。教育委員の皆様から御自由をお願いしたい

と思います。

どうぞ、小林委員。

小林委員 それでは、発言をさせていただきます。まず初めに国語ということではなくて、今回の教科書の選定に当たって参考にしたものということで、簡単に御説明をさせていただきます。

まず1点目は、国の学習指導要領で、学習指導要領に沿っていることです。2点目が、東京都の資料で「教科書調査研究資料 小学校」。3点目は、荒川区教科用図書選定調査会の資料を参考にしました。4点目としましては、荒川区の教育実態、具体的には学力テストの結果、荒川区の地域性、またアンケートです。このような資料をもとにしながら、総合的に判断をさせていただきました。

それを踏まえた上で国語ですが、荒川区にとって適切と思われる教科書ですが、二つ候補を挙げさせていただきたいと思います。まず1者目ですが、光村図書です。光村図書ですが、非常に掲載されている作品がよいと。特に文学的な文章が多く収録されておりまして、谷川俊太郎さんなどの詩歌が多いと言えます。

2点目ですが、文章の後ろに収録されている発問が深く考えさせる発問でありまして、読みを鍛える、そういった発問になっていると思います。3点目としては、いろいろな工夫がされておりまして、例えば6年生の34ページですが、地域の施設を活用しようということで、図書館で公共図書館の説明があるのですが、これは「ゆいの森」でしょうか。

教育長 はい、そうです。

小林委員 こういった点でも「ゆいの森」との連携ができるのではないかと考えております。

2者目ですが、東京書籍です。東京書籍の特色としましては、説明的な文章の分析の仕方が丁寧にされているということです。また2点目として、説明的な文章を書くことを重視しておりまして、具体的にどのように書けばいいかという説明が丁寧です。例えば6年生の12ページあたりに、原因と結果に着目しながら学ぶといった記述がありまして、これは非常にいいのではないかと思いました。日本の従来の国語教育は、どちらかといいますと感情の読み取りを重視してきたということがありますが、これからグローバル時代の中でむしろロジカルシンキングが重視され、その中で論理の読み取り、また論理的な文章を書くことが重要になるように思われまして、挙げさせていただきました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。それでは坂田委員、どうぞ。

坂田委員 私もまず全体についての方針について少しお話しさせていただきます。参考にしたものは小林委員が今、おっしゃったとおりです。特にアンケートが今年は非常にたくさん、

450名ですが、集まっていたので、1枚1枚見せていただきました。学習の進め方、それから見やすさ、それと主体的な学びになっているかどうか、教えやすさ、情報量、それから読ませたい教材があるかどうか、それから中学校へのつなぎについての御意見があったと思うのですが、非常に多様な観点からの御意見があったと認識をしています。

私としてはそういったことも踏まえて、これは全体共通ですけれども、1点目は、児童のわかりやすさということで、単元の流れがしっかりしているかどうか。それから2点目は、荒川区の児童の現場の視察などから見て、荒川区の児童に合った難易度や表現になっているかどうか。それから荒川区も初任や若手の教員も今、たくさん入ってきていますので、そういった方でも十分に教えられるかどうか。それから、近年やはり社会の大きな構造変化も生まれていますので、そういった観点の中で重要なものがきちり取り上げられているかなどの観点から選考を進めさせていただきました。

国語についてですけれども、私もまず一つ目の候補が光村図書です。先ほどの小林委員と同じですが、やはり読み物の質が非常に高く、読ませる内容になっていて、国語としては基本的に重要なことかなと思います。それから2点目に設問の発し方などから、主体的な学びということについてよく意識された教科書になっていると思います。

小林委員がおっしゃられた以外でいいますと、6年生では特に文化という点についてかなり踏み込んでいて、例えば130ページは「秋深し」、それから142ページに「鳥獸戯画」を大きく取り上げられていまして、読み物重視、読み物の質の高さと、そういった国語と非常に近い領域である文化とうまく連動させた教科書だと思います。

2つ目が東京書籍でして、東京書籍は何といても論理的な思考の育成を非常に重視しているというのは小林委員がおっしゃるとおりだと思います。典型的なのが6年生ですけれども、例えば43ページ、文章の構成を捉え、筆者の考え方を確かめて、筆者の論の進め方を確認していくような、こういったことが出ていまして、6年生の教科書はこういう論理をすごく強く意識したものになっているように思います。

両者が一応候補で、その他の教科書につきましても図書館の活用だとか、読書生活について各者かなり配慮されていると思いました。

私としては両方、光村図書と東京書籍を比較検討しましたがけれども、光村図書の方を1番に推したいと思います。

教育長 ありがとうございます。それでは長島委員、いかがですか。

長島委員 私も既にお2人の委員からお話があったように、選定調査会の資料、報告書であるとか、都教委の研究資料であるとか、アンケートの結果、先生方、それから保護者の方のアンケートの結果等も参考にして選びました。国語は4者のわけですが、東京書籍につま

では各学年に、「図書館へ行こう」という項目があったりして、区が進めている、区の教育方針といえますか、そういったものに合致しているのかなと思います。

学校図書につきましては、ほかの発行者もそうですけれども、例えば4年生の下だったと思いますが、点字が示されているのですね。文字に対する興味とか、そういったものを喚起するのに非常にいいものだなと感じました。

教育出版は、4年生の上だったのですが、教材として落語が取り上げられたりして、今の教科書はそういうことになっているのかと思ったりもしました。学習の進め方ということで、教育出版の場合、「確かめよう」、「考えよう」、「深めよう」、「広げよう」という形で示されているのですが、その下に何かヒントに当たるようなことが示されていて、例えば3年生の上ですと、28ページに、こういうことがわかりそうだねとか、いろいろ挙げられているのですが、どこまで示すのがいいのだろうとちょっと考えさせられたところです。

光村図書につきましては、既に話がありましたように、読む教材は充実しているのかなと思います。私は、光村図書につきましては、例えば3年生の上のところで、情報を集めるときに使おうということで、引用について詳しく示されていて、今、大学でもレポートを書くときの引用についてうるさく言われているものですから、小学校の3年の段階でこういったことを既に取り上げるということもいいのかなと思いました。それから4年の下では「言葉について考えよう、つながりに気をつけよう」ということで、主語と述語について詳しく書いてあったり、一文は短くなどと示されていて、書くことということについては非常に充実したものになっているのかなと思いました。

こういったことから総合的に考えまして、私としては光村図書を推したいと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。では繁田委員、どうぞ。

繁田委員 参考資料等はほかの委員の先生方と同じでございます。意見の重なるところが多くて、新しいことはほとんどないのですけれども、まず全体を拝見したとき、表現の仕方は学習の進め方とか手引とかいろいろあるのですけれども、使い方に関しては、どれも先生方がお使いになりやすいだろうなという印象を受けました。その上で、もちろん国語というのは文章をきちっと正確に理解する、そういう能力を育てるのが第一でございますけれども、考えがまだ古いのかもしれませんけれども、文章を読んで感動するというのを国語の中では経験してほしいというのが、私の個人的な願いでもありまして、それを考えると先生方が作品がというのをしばしば御指摘なされた光村図書が私の中でも一歩引かれるところが強かったように思います。書かせることを重視した教科書でございましたけれども、今回に関しては読んで感動できる教科書というところが一番印象に残ったということでございます。

以上でございます。

教育長 ありがとうございます。最後に私からも一言、申し上げさせていただきます。

審査に当たりましては、東京都の資料ですとか、文科省の学習指導要領解説に掲げられている視点等をそれぞれの発行者がどういった形で実現しているのかというところを中心に見させていただきました。総じて各者とも大変工夫をしていただいております、とりわけ荒川区教育委員会として重視しております図書館教育については、各者とも各学年において「図書館に行こう」ですとか、良書を紹介するコーナーを数多く設けていただいております。どの発行者を選んで子どもたちがきちんと読書に親しむ環境というのが整えられているのではないかと感じた次第です。

先生方が触れられなかった点について若干触れさせていただきますと、学校図書は学習のめあてを各単元の冒頭と最後に掲載し、単元のねらいが子どもたちにわかりやすく解説していますし、そのねらいが果たして達成できたのかどうかということが確認できるようになっており、大変感心いたしました。

また、教育出版についても長島先生が触れられたように「確かめよう」、「考えよう」、「深めよう」、「広げよう」と、四つのステップで学びを深めていくという工夫がなされているのと、子どもたちの発言等で吹き出しを多く使って、わかりやすく解説している点が、子どもたちの理解が進みやすいのではないかと思った次第でございます。

そのほか先生方、御発言等ございますでしょうか。御質問等でも結構ですけれども。よろしいでしょうか。

先生方には具体的にどこの発行者を推薦するというお話もいただいておりますけれども、改めまして採決ということで、発行者名を順に申し上げますので、推薦するものに挙手をお願いいたしたいと存じます。

初めに東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 ゼロでよろしいでしょうか。

続きまして学校図書がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 ゼロですね。

教育出版がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんか。

では最後に、光村図書出版がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 5名の教育委員、皆さんが光村図書出版を推薦するということでございますので、「国語」については光村図書出版を採択したいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは教科「国語」、種目「国語」につきましては、光村図書出版の教科用図書を採択することと決定いたします。

続きまして、教科「国語」、種目「書写」の審議、採決をいたします。

これについても指導室長から最初に説明をお願いします。

指導室長 続きまして、教科「国語」、種目「書写」でございます。

「新しい書写」、東京書籍でございます。内容につきましては、書き込み欄を活用して、必要な知識・技能を定着できるようになっております。表現につきましては、点画の書き方を51項目、文字の組立・形を41項目取り上げております。使用上の便宜につきましては、教科書サイズはA B判でございます。

次に「みんなと学ぶ小学校書写」、学校図書でございます。内容につきましては、書写の学習がさらに深まる資料、コラムが「書写の不思議」、「書写の資料館」で工夫されております。表現につきましては、点画の書き方を38項目、文字の組立・形を32項目取り上げております。使用上の便宜につきましては、教科書サイズはB 5判でございます。

次に「小学書写」、教育出版でございます。内容につきましては、「レッツトライ」では、書写で学習した内容を他教科や学校生活に生かしております。表現につきましては、点画の書き方を45項目、文字の組立・形を38項目取り上げております。使用上の便宜につきましては、教科書サイズはB 5判でございます。

次に「書写」、光村図書出版でございます。内容につきましては、国語の教科書と連動した教材を設定しており、国語と一体的に扱える工夫をしております。表現につきましては、点画の書き方を49項目、文字の組立・形を40項目取り上げております。使用上の便宜につきましては、教科書サイズはB 5判でございます。

次に「小学書写」、日本文教出版でございます。内容につきましては、「国語の広場」で書写で培った知識及び技能、思考力・判断力・表現力を言語活動を通して確実なものにするよう図っております。表現につきましては、点画の書き方を50項目、文字の組立・形を51項目取り上げております。使用上の便宜につきましては、教科書サイズはB 5判でございます。

以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

教育長 書写について説明がありました。御審議をお願いいたします。

小林委員、どうぞ。

小林委員 適切と思われる教科書として挙げさせていただきます。1者目は光村図書です。これは国語の教科書と連動した教材を設定しておりまして、国語と一体的に扱えるように工夫している点がとてもよいのではないかと思います。

そして2者目ですが、学校図書を挙げさせていただきたいと思います。冒頭に興味深い資料がありまして、例えば6年生で見ると、身の回りの文字、どういう文字があるかが写真付きで紹介されてあるとか、いろは歌の教科書の写真が載っています。これだけで読んでいても楽しく、文字に対する興味をわき起こさせてくれるような内容であると思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは坂田委員、どうぞ。

坂田委員 私は書写につきましては、一つは1年生の導入のところが親しみやすいかどうか、それから書くということは当然ですけれども、姿勢であるとか、それから筆の持ち方などの記述が適当であるかということを検討しましたけれども、いずれの教科書でも十分であると判断いたしました。

そういったことから先ほど国語で光村図書を選びましたので、光村図書出版につきましては、国語の教科書と一体的に扱えるような工夫がされているという点を重視して、光村図書を選びたいと思います。

教育長 ありがとうございます。ほかに。

長島委員、どうぞ。

長島委員 国語の教科書と同一の発行者がいいのかどうか、ちょっと迷っておりまして、国語は光村図書ということになりましたので、そういうことでは光村図書がいいのかなと思います。ただ、それが別でもいいということであれば、各者それぞれ工夫をされていて、全体ですごくよく工夫されていると思ったのですが、いろいろな情報が盛り込まれているわけですが、私が選んだ観点は、すっきりした印象というのはちょっと抽象的な言い方ですけど、書写に集中できるということであると、日本文教出版とか教育出版がいいのかなと思いついて、日本文教出版を推したいと思います。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員、どうぞ。

繁田委員 いずれの教科書も進め方とか学び方とかめあてとかという形で、使い方が出ていまして、どれもとても使いやすくだらうと思って、私はとても甲乙つけがたいというのがまず

は印象でした。

その中で、内容で一つ気が付きましたのは、書写ですので、もちろん文字の書き方ではあるのですけれども、画のつながりということで、恐らく光村図書だけだと思うのですけれども、文字と文字のつながりにちょっと触れていて、やっぱり書写は言葉であるとか、あるいは文章を書くということになるわけで、それを意識すると少し、より一つほかのものよりも好印象だったのが光村図書というのが私の印象でございます。

以上です。

教育長 私は、確かに国語との接続というのもあるのですけれども、中身を見ると国語の教科書と同じ発行者にしなくてもいいのではないかと考えて、独立して審査をさせていただきました。

その中で、特に筆の見本と、その書き方が見開きになっている発行者の方が見やすいと思った次第です。そういった意味では教育出版と日本文教出版が見開きの構成になっています。とりわけ日本文教出版は手紙の書き方、今、子どもたちもあまり手紙を書かなくなってきてしまっていると思うのですけれども、3年生、4年生、5年生、6年生と、手紙の書き方を丁寧に解説しておりまして、筆も大切なのですけれども、大人になって手紙を書いたり、あるいはまた文章を書いて渡すというときに、きちり基本が身についている、そういった大人になってほしいということからすると、日本文教出版の書写の教科書は大変丁寧に作られていると思った次第でございます。

そのほか御意見等ございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、採決に移らせていただきます。初めに東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 ゼロですね。

続きまして、学校図書がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 ゼロですか。

教育出版がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんね。

光村図書出版がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 3名ですね。

日本文教出版がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 私も入れて2名。ということで、3名の方が光村図書出版を推されましたので、「書写」につきましては、光村図書出版の教科用図書を採択したいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、そのように決定をいたします。

続きまして、教科「社会」、種目「社会」の審議、採決をいたします。

指導室長から説明をお願いします。

指導室長 続きましては教科「社会」、種目「社会」でございます。

「新しい社会」、東京書籍でございます。内容につきましては、6年生は政治単元と歴史単元に教科書が分かれております。前年度からのつながりを大切にしております。表現では、写真中心に資料が作成されており、児童の理解につながりやすくなっております。学習活動につきましては、「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」の学習段階をたどりながら学習を進めることができる内容になっております。

次に「小学社会」、教育出版でございます。内容につきましては、5年生が252ページで完結するなど、教科書が薄くてできておりますが、文章が多く記載されております。内容を網羅するだけでなく、道徳項目に関する記載がございます。表現では、図と表が豊富に使用されております。学習活動では、はじめのページでこの時間の問いについての学習を1ページで紹介し、社会的見方・考え方を身に付けさせようとしております。

次に「小学社会」、日本文教出版でございます。内容につきましては、「私たちの学びを生かそう」というページが設定されており、児童の興味を広げられるようにしております。表現では、イラストが細かく描かれているので、児童の発達段階に合った学びができるものになっております。学習活動では、各単元に学び方や社会的見方・考え方を年間を通して示しております。

以上でございます。よろしくお願いいいたします。

教育長 それでは、社会についての御審議をお願いいたします。

小林委員、どうぞ。

小林委員 3者とも非常にすばらしい内容だと思いました。どちらかといいますと従来社会というのは暗記科目というイメージが強かったのですが、3者ともに思考力を鍛えることを重視しながら教科書が作成されており、非常にすばらしく、優れていると思いました。

その3者の中で、特に推したい、相対的に比べるといいかと思われたのが、東京書籍です。

東京書籍ですが、まず1点目としては、5年生、6年生が政治単元と歴史単元ということで分冊になっております。取り扱いやすいというメリットがあると思います。2点目ですが、先ほどの御説明の中でもあったのですが、「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」といった学習段階をたどりながら学習をする工夫がなされている点です。特にこの中で「生かす」という部分に注目したいと思います。例えば3年生の「新しい社会」を見ますと、地域の特産品を調べた上で、ではそれを具体的にどういう形で応用していくのかということで、提案文を書くといった学習内容が含まれておりまして、これは優れているのではないかと思います。3点目、歴史に関していいますと、写真中心で資料が作成されておりまして、また写真が非常に鮮明でインパクトを与える写真であるという点を挙げたいと思います。4点目ですが、例えば6年生、政治・国際編を見ますと、世界の中の日本ということで取り上げているものとして中国、韓国、アメリカ、サウジアラビアという国が挙がっております。東アジアの国として中国、韓国、またアメリカ、さらにイスラム圏、また石油資源ということでも日本と関係の深いサウジアラビアが取り上げられているということで、バランスがとれていると思われました。また中国の取り上げ方に関して、一方で現在、経済的に発展している実情がありますので、そういった点についても紹介しているということからもバランスがとれているのではないかと考えました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

それでは坂田委員、お願いします。

坂田委員 まず全者につきまして、現下の世界的に重要な変化や様相がきちんと取り上げられているかということについて確認をいたしました。結果としては1点を除き、どの教科書も十分であると思います。1点というのは、去年の初めから今、社会において非常に大きな課題になっているのは世界の分断、フラクチャードワールド。この点については小学校ということもあるのでしょうかけれども、各者として触れているところが少なく、例えば教育出版ですと6年生の105ページに「世界との関わり」ということで、漢字とそれから仮名の話。漢字と仮名の話は、実はお互い、いかに影響を与え合って交流し合ってきたかという非常に象徴的な事例だということで、私はもっと大きく取り上げたらいいのではないかと考えたのですが、いずれにしてもその点を除けば各者きちと取り上げていると考えました。

それで各者の比較検討ですが、東京書籍は「つかむ」「調べる」「まとめる」の流れの中で、結構具体的に課題を扱っていきまして、何か印象としては教室で学んでいるというよりは、現場で学んでいるシミュレーションというか、そういう感じになっています。その結果、何々さんの話というのがたくさん出てくるという点が興味深いなと思われました。一言でいうと何

かじっくり教えているなという、そういう印象です。

評価したい点としては、6年生の政治の方の教科書で、東日本大震災からの復興について46ページから57ページまで、非常に長い紙面を割いて取り上げていまして、こういった点は復興への支援であるとか、被災地との交流を重視してきた区の方針と非常に合っていると思います。

2番目に、教育出版ですけれども、全体の作りとしては比較的オーソドックスな作りではないかと思います。全体の流れとして、子どもたちを主体にした対話型で話を進めていくという、そういう作りになっていまして、その点は非常にわかりやすくうまくまとまっているなと思いました。6年生の冒頭で、パラリンピックも意識したインクルーシブということを中心に教えていまして、これは個別の要素としては非常に印象深いものだと思います。

日本文教出版ですけれども、教科書の作りとして親しみやすさを重視されているように思います。また教室などで論じ合うということも重視されていて、特徴としては特定の 이슈を多くの紙面で長く扱って議論させるというか、そういう作りが特徴かなと思いました。

いずれも優れたところがあるのですが、皆さんの御意見を聞く前の現時点では、教育出版を推したいと思います。

教育長 ありがとうございます。

では、長島先生、どうぞ。

長島委員 小林委員がおっしゃったように、各者、思考力を深めるといいますか、そういった観点から各単元の進め方をそれぞれ工夫されているのかなと思いました。東京書籍は「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」、そういったのですし、教育出版は冒頭に生活科とかの前の学年の理解を、あるいは社会科の見方や考え方、学習の進め方というのを示した後に、各単元、「この時間の問い」「次につなげよう」「まとめる」という構成になっています。坂田委員がおっしゃったように、ある意味オーソドックスなのかもしれません。

それから日本文教出版ですが、「調べる」「話し合う」「まとめる」「伝える」という進め方になっております。ちょっとページの構成がやや煩雑かなという印象を私は受けました。

授業の流れとといいますか、授業の進め方という観点を重視すると、今の段階では教育出版がいいのかなと感じております。

教育長 ありがとうございます。

では、繁田委員、どうぞ。

繁田委員 私はどの教科書も写真がどれも新しくて、すごく印象深いものがたくさん掲載され

ている点、児童が興味を持って学習できるだろうなというのを、これはつくづくページをめくるたびに感じました。

3者の違いの中で、取り上げている教材で既に御指摘があったのですけれども、6年生の選択で、震災からの復興ということで、これは3者とも取り上げているのですけれども、東京書籍が12ページと一番長く、坂田先生もおっしゃっていたように、取り上げている点と、原発のことも1ページ丸々取り上げているのはすごく印象に残りました。重要な問題として児童にこういう問題を考えてほしいなと思いました。

さらに、もう一つの6年生の選択のところの話で続けますと、もう一つの選択で何を取り上げているかというのは各者違ったのですが、東京書籍は子育て支援で、これはうまくすると兄弟姉妹がいたりすると、お父さんとかお母さんとかこういうお話でコミュニケーションをとってもらえたらいいというのが希望的な観測ですけれども、印象でございました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。先生方のお話ですと東京書籍と教育出版がいいのではないかというお話でした。実は私も3者の教科書を見比べていて、東京書籍か教育出版がいいのではないかと思ったところです。

東京書籍については、「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」ということで、学習段階ごとに単元が進んでいくのでわかりやすいのと、政治と国際とか、5年生、6年生が2分冊になっているので、使いやすいのではないかと思った次第です。

一方、教育出版については、活字のユニバーサルフォントが大変読みやすいという印象があります。そういった意味では社会というとなかなか子どもたちも教科書を読むのにちょっと苦労してしまうところがあるのですが、これだったら読みやすいのではないかと思います。キーワードですとか、次につなげようということで、学びを発展させられるような記述も取り入れているのにも感心いたしました。

そのほか先生方、御意見、御質問等ございますでしょうか。特になければ採決とさせていただきます。

「社会」です。初めに東京書籍がよいと思われる方について挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 3名ですね。

ちなみに教育出版がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 2名。

日本文教出版はではゼロということで。

3名の方が東京書籍を推薦されました。東京書籍の教科用図書を「社会」として採択したいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 「社会」については、東京書籍を採択することと決定いたします。

続きまして、教科「社会」、種目「地図」の審議、採決をいたします。

最初に指導室長から説明をお願いします。

指導室長 続きまして、教科「社会」、種目「地図」でございます。

東京書籍でございます。内容につきましては、地図帳というより内容が豊富なので資料集のイメージとなっております。写真を多く取り入れております。全体的に色合いが濃く、地形も読み取りやすくなっております。表現につきましては、統計資料は字が大きく見やすくなっております。

次に帝国書院でございます。内容につきましては、QRコードを読み込むとそのページが画面に表示でき、電子黒板にも映すことができるようになっております。全体的に色合いが薄く、字が読みやすくなっております。表現につきましては、統計資料は字が小さいのですが、グラフと併用されているので、わかりやすくなっております。

以上でございます。よろしくお願い申し上げます。

教育長 それでは「地図」につきまして、御審議をお願いいたします。

小林委員、どうぞ。

小林委員 2者ありますが、私としては帝国書院を推薦したいと思っております。理由としましては、全体としてスッキリとしておりまして、地図の色合いがよいというのが1点目です。それと2点目ですが、帝国書院の方が手に持った感じがよいということがあります。地図帳というのは持ち運ぶものだと私は思っております。いろいろなところに持ち運び、絶えず見るものですので、扱いやすいのが重要と考えます。

以上から帝国書院を推薦したいと思っております。

教育長 ありがとうございます。

では坂田委員、どうぞ。

坂田委員 私も帝国書院の方を最終的には選んだのですが、内容的には東京書籍の方は先ほどの説明にもありましたように非常に資料性が充実していて、見やすく、いいなと思うのですが、教科書もありますので、地図帳としては全体として見やすい感じがする帝国書院の方を選びたいと思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。

では、長島委員、どうぞ。

長島委員 先ほどからいろいろな資料がいっぱいというお話が出ておりますけど、そのとおりかなと思ひまして、日本の産業であるとか、貿易、それから歴史、世界とのかかわり、つながりとか、それから自然災害とか防災についても両者とも取り扱われているということで、感心いたしました。

いろいろ迷ったのですが、既に両委員からお話がありましたように、色使い、あるいは見やすさといったことから、帝国書院を推薦したいと思ひます。

教育長 ありがとうございます。

それでは、繁田委員どうぞ。

繁田委員 先生方の御意見のとおりで、どちらも見やすくつくられておると思ひますけれども、一つ違いとして気が付いた、気になりましたのは、例えばヨーロッパの地図で、アジア・ヨーロッパもそうなのですが、東京書籍の方は標高差で色をつけている。帝国書院の方は国で色分けなのです。個人的な趣味としては、国の形がわかるのはやっぱり標高差で色をつけているほうが、僕は個人的には地図らしくて好きなのです。地図自体を見ましてももちろん本当に大きなまちとか都市とか、首都が書いてあればもう十分なのかもしれませんが、東京書籍の方がちょっと首都の数の情報も多いですし、世界遺産もより多く掲載されているように思ひましたので、私はちょっとほかの先生方と違って東京書籍の方が世界地図といひますか、世界に興味がある、いろいろな国に興味がある児童には、より深く眺めていられるかなということで、東京書籍を推したいと思ひます。

教育長 ありがとうございます。私は、どちらかといえば帝国書院がいいかと思ひました。巻末に日本の統計とか世界の統計という表が載っているのですが、帝国書院の方は2016年とか2017年の数字で、東京書籍の方は2015年の数字だったりするので、帝国書院の方が最新のデータを掲載しているなと思ったところです。

ただ、帝国書院さんにはぜひ事務局からお願いしてもらえればと思ひますけど、首都東京の地図というところで、荒川区が欠けてしまっているのですね、全部載っていない。それはちょっとと思ひます。荒川区が欠けているということは足立区も載っていないということなので、ぜひ23区平等に扱ってもらいたい。それはお願いしたいと思ひます。ただ2者から選ぶということですので、帝国書院を私は推したいと思ひます。

そのほか御意見、御質問等ございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、採決に移らせていただきます。初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

それでは次に、帝国書院がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 4名ですね。

それでは4名の方が帝国書院を推薦されましたので、「地図」につきましては帝国書院の教科用図書を採択したいと思います。御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それではそのようにいたします。

続いて教科「算数」、種目「算数」の審議、採決をいたします。

指導室長、説明をお願いいたします。

指導室長 続きまして教科「算数」、種目「算数」でございます。

「新しい算数」、東京書籍でございます。内容につきましては、単元末の「算数の目」では計算の仕組みなどを言葉で説明する課題が設けられており、言語能力の育成等にも重きを置いております。表現につきましては、今日の学びとして1時間の授業の中で数学的活動がどのように展開されるかを例示しているページがございます。使用上の便宜では、幼小の円滑な接続を意図して、1年生に大判、ノートの役割を兼ねた別冊が用意されております。

次に「たのしい算数」、大日本図書でございます。内容につきましては、学習を日常生活と関連させることや資料を読み取る力を伸ばすことに重点を置いた教材を設けております。表現につきましては、写真等で授業展開の見通しを持てるよう工夫されております。使用上の便宜では、低学年で家庭で取り組める算数活動の例が紹介されております。

次に「みんなと学ぶ小学校算数」、学校図書でございます。内容につきましては、「深めよう」「深めたいな」などのトピックを通じて、学習内容と日常生活の関連を図っております。表現につきましては、児童の言葉で学習過程が提示されており、主体的に学び合う力の育成を重視しております。使用上の便宜では、6年生の教材として、中学校との接続を意図した予習内容の別冊が設けられております。

次に「小学算数」、教育出版でございます。内容につきましては、児童の算数への興味・関心を高める教材を各学年の初めに位置付けております。表現につきましては、「算数メモ」、「よくある間違い」等、学習を振り返ることを意図した記載がページの隅にございます。使用上の便宜でございます。巻末の既習内容の振り返りのページで作図等の操作活動の手順について、写真も加えながら丁寧に解説されております。

次に「わくわく算数」、新興出版社啓林館でございます。内容につきましては、「わくわく算数広場」等で学習内容と日常生活の関連を図っております。表現につきましては、3年生

の棒グラフでは合成の前後を並べて表示してあります。使用上の便宜では、巻末の付録として付けられている教材に工夫が見られ、充実しております。

次に「小学算数」、日本文教出版でございます。内容につきましては、巻末の補充問題が習熟度に応じて利用できるようにまとめられております。表現につきましては、数学的な見方・考え方を例示し、児童が思考ツールとして見方・考え方が活用できることを意図したページが設けられております。使用上の便宜では、1年生の就学前の算数にかかわる生活経験を振り返る内容を設けております。

以上でございます。よろしくお願いたします。

教育長 それでは「算数」につきましての御審議をお願いいたします。

小林委員、どうぞ。

小林委員 算数ですが、本当に迷いました。ただの計算ということではなく、主体的に学び合うということで、各者が非常に工夫を凝らしておられるということから迷ったのですが、現在の時点では東京書籍を推薦したいと思います。

理由としましては、事例の適切さを挙げたいと思います、1点目です。例えば6年生の中でデータの調べ方という項目があるのですが、6年生の長縄の8の字飛びの2週間にわたる結果から、優勝しそうなクラスを予想するといった事例が適切で身近です。これを1点目として挙げたいと思います。

2点目ですが、1年生を見ると判が大きくなっておりまして、幼小接続の工夫がされているということです。これはまたノートも兼ねていて、幼小接続の点から非常に入りやすいのではないのでしょうか。

3点目ですが、1こまの授業でやることが明確ということです。

ほかの教科書も挙げておきたいのですが、学校図書は対話的な学びを意識していて、「話し合いしたいな」「説明したいな」「班で考えたいな」「クラスで考えたいな」というガイドがありまして、この点が非常に優れていると思いました。

また、3者目としては、教育出版ですが、図形のところでクイズで考えさせる導入であるとか、そういったことが非常に工夫されている教科書と思いました。

また、教育出版ですが、情報通信技術の進化や利用について調べようという項目がありまして、現代的な内容に対応しています。

現在の時点では東京書籍を推薦したいと思っております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、どうぞ。

坂田委員 算数につきましては、私は2点のことが大事だと思っております。一つはやはり算数は解かせながら教えていくというのが基本なので、そのプロセスが先生にとって使いやすいかどうかというのをまず確認しました。その点においては各者ともやはり相当工夫をされて、条件を各者とも十分満たしていると思いました。

もう1点は、これは小学校の算数において特に重要だと思うのですが、中学校の方はもう少し方程式で解くようになってくるので少し変わりますけれども、直感的な理解、子どもたちに直感的な理解を教えるのはやっぱり小学校の算数の特徴だと私は考えておまして、その点については各者少し差があると思っています。

その中で、東京書籍ですけれども、その中の図だとか、図を並べて教えるだとか、そういったところをいろいろ見てみると、やっぱり直感的な理解という意味では丹念によくできていて、子どもたちもそのような、小学校における算数の理解にはすごく役立つ教科書ではないかなと思いました。問題の方はもう少しあってもいいかなとは思ったのですけれども。

次に教育出版ですが、東京書籍より構成がシンプルになっていて、使いやすいという意味ではいいところがあると思います。例えば6年生の145ページとか146ページを見ると、展開図があるのですけれども、先ほどの直感的な理解によるという面では、この辺の展開図というのは非常にわかりやすいものになっていると思います。それから確かめとか復習問題が組み合わさっていて、その点もいいかなと思いました。

あと、学校図書ですけれども、これも作りとしては比較的シンプルな作りになっていて、授業を進める上ではこういうシンプルなものが使いやすい面もあるのではないかなと思いました。

大日本図書は、授業の中での問いかけ、発問というのを結構重視されていると思います。荒川区の授業でも、見ているとそういう授業の進め方をされている先生も結構おられて、そういう面では合っているかなと思いました。

結構迷うのですが、私は東京書籍か教育出版、いずれかと思っています。

教育長 ありがとうございます。

では長島委員、どうぞ。

長島委員 初めに全体的なことといいますか、算数について学習指導要領にも基礎的、基本的な概念や性質の理解とか、あるいは日常の知識を数的に処理する技能だとか、そういったことと並んで、よりよく問題を解決しようとする態度だとか、学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養って身に付けたい、そういうことを求めているわけですね。そういった意味で、各者とも課題として「考えましょう」とか「説明しましょう」とか、あるいは「話し合ってみましょう」というのを設けているわけですが、そういったことをいろいろ工

夫されているのかなと思いました。

どういった観点から選ぶべきだろうということで、子どもたちが算数に苦手な意識を持つことがなくて、その一方で算数が得意だという子はその力を一層伸ばせるような、そういった教科書がいいのかなと考えまして、その苦手意識に関しては学習の進め方ということに注目して見てみました。それも各者いろいろ工夫されているのだなと思います。それから得意な子をもっとということについては、これはもっといいますと習熟に応じた指導ということになると思いますけど、これも各者工夫されていて、巻末に補充問題が用意されていたりとなっているかと思います。

都教委の資料ですと、各単元の練習問題の数の合計は、一番多いのは学校図書で、日本文教出版がちょっと少ない。それから巻末の児童の習熟に応じた練習問題、これページ数で見えていますけど、それが多いのは日本文教出版で少ないのは大日本図書だという結果が出ております。

私は学校図書を推したいと思っているのですが、その理由をこれから述べます。一つは、学校図書は三つの学びの力、これは考える力、判断する力、表す力ですけれども、思考力、判断力、表現力です。それから三つの学び方、みずから進んで学ぶ主体的な学び、友達とともに学び合う対話的な学び、学習したことを維持する深い学び、この主体的、対話的、深い学び、そのものといえるかもしれませんが、これを明確に打ち出していて、タイトルも「みんなと学ぶ算数」となっております。

それから、別冊で「中学校へのかけ橋」が用意されているということもありまして、学校図書を推したいなと考えております。

教育長 ありがとうございます。

それでは繁田委員、どうぞ。

繁田委員 いずれもイラストであるとか、漫画であるとか、そういったものを使って児童の興味を引くように工夫されているというのはとても感心して拝見しました。とても迷いました。

例えば内容に関して、プログラム、プログラミングがほぼ全学年で取り上げているというところと大日本図書であるとか学校図書でしたし、最近の数学のということだと、算数でもデータの活用というのが本当に充実していて、特に東京書籍、学校図書、教育出版、文教出版等々でありました。

最終的にどれか一つとか、あるいは一つ、二つというところを選ぶとすれば、かなり個人的な意見になるのかもしれませんが、先ほど学校図書がシンプルな教科書であると御指摘をされた委員の先生もおられましたけれども、イラストとか漫画で楽しく読むということも大事なかもしれませんが、問題を解くためには数値なり図形なりに集中して取り組ま

なければいけないということを考えると、一見するとシンプルということに通じるのかも知れないのですが、開いたときに白いでしょう、本が。私はその図形であるとか、数値が際立ってそこに見える学校図書が、個人的にはいいのではないかと思います。もちろん教えられる先生の力が求められるかなという気はしますけれども、児童の気を散らさない教科書みたいなイメージを持ちました。

以上でございます。

教育長 ありがとうございます。それでは私から意見を述べさせていただきます。

東京書籍については、安定しているなという印象です。補充問題だとか、おもしろ問題チャレンジとかということで、学びを深められる内容にもなっていますし、これは各者とも工夫していますけれども、算数嫌いにならないように、そしてまたその単元にスムーズに入っていけるように、学校行事ですとか身近な生活から学習に入っていくという意味では、大変わかりやすい構成になっていると思いました。

それ以外では、大日本図書についてめあてがはっきりしている点と、単元ごとに学習すべき内容がはっきりしており、確かめ問題とか練習で学びを確認できて、プラス問題で応用ということもできているというところなど、構成がすばらしいと思いました。

あと日本文教出版ですけれども、確かめポイントですとか次の学習のためにということで、学んだことがきちんと理解できているかどうか、子どもたち自身で確認できるようになっていますし、巻末に学年のまとめ問題だとか、これまでの学習のまとめということで要点が掲載されているので、うまく活用していけば学習した内容がきちんと身につけているかどうか、確認ができるのではないかと思います。

いずれにいたしましても、各者とも大変工夫しているなという印象でした。

それでは、ほかに御意見等なければ採決に移らせていただきたいと思います。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 3名ですね。

大日本図書を推薦される方。

〔挙手〕

教育長 ゼロですね。

学校図書を推薦される方。

〔挙手〕

教育長 2名ですね。となるとこれで5名ということですね。

それでは、3名の方が東京書籍を推薦されました。「算数」につきましては、東京書籍の

教科用図書を採択することとさせていただきたいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、そのように決定をいたします。

続きまして、教科「理科」、種目「理科」の審議、採決をいたします。

指導室長、理科について説明をお願いします。

指導室長 続きまして、教科「理科」、種目「理科」でございます。

「新しい理科」、東京書籍でございます。内容につきましては、単元の初めに「学んだことを使おう」という既習した内容が掲載されているところがございます。学習活動につきましては、各単元の初めに「学ぶ前の私」、終わりに「学んだ後の私」があり、振り返らせて学びを深めようとする工夫がございます。使用上の便宜では、6年生の巻末には理科室や実験器具10種類の使い方が8ページ記載されてございます。

次に「楽しい理科」、大日本図書でございます。内容につきましては、学習したことと生活が結びつく資料を「りかのたまてばこ」で資料を提供してございます。学習活動につきましては、「学びをリンク」というページがあり、今まで学習したことを振り返らせ、学びを深めようとする工夫がございます。使用上の便宜では、6年生の巻末には理科室や実験器具9種類の使い方が8ページ記載されてございます。

次に「みんなと学ぶ小学校理科」、学校図書でございます。内容につきましては、既習した内容の「今までの学習を思い出してみよう」というページがございます。学習活動につきましては、単元の初めに小単元が示され、学習の見通しを持たせる工夫がございます。使用上の便宜では、6年生の巻末には理科室や実験器具6種類の使い方が8ページ記載されてございます。

次に「未来をひらく小学理科」、教育出版でございます。内容につきましては、単元の初めのページに「学習のつながり」があり、小学校と中学校で学ぶ系列を掲示してございます。学習活動につきましては、自分たちの考えを伝えあうページがあり、対話して学びを深めさせる話型が掲載されてございます。使用上の便宜では、6年生の巻末には実験器具2種類の使い方が2ページ記載されてございます。

次に「楽しい理科」、信州教育出版でございますが、地方限定の教科書で、区市町村教育委員会には提供がございませんでしたので、調査から省かせていただいております。

続きまして「わくわく理科」、新興出版社啓林館でございます。内容につきましては、各単元の最初のページに「思い出してみよう」という欄がございまして、既習事項を振り返る場面が載っております。学習活動につきましては、「はじめに考えてみよう」と「もう一度

考えてみよう」という記述があり、考えを深めさせる工夫がございませう。使用上の便宜では、6年生の巻末には実験器具8種類の使い方が4ページ記載されてございませう。

以上でございませう。よろしくお願いいたしませう。

教育長 それでは「理科」の御審議をお願いいたしませう。

小林委員、お願いいしませう。

小林委員 理科に関しましては、実験が重要でせう。実際に仮説を立て、実験をし、結果を出し、そこから考察するという流れが非常に重要と考察ておるしませう。その点からまず1者目ですが、大日本図書がよいのではないかとおもひました。大日本図書は問題、予想し、調べ、結果を出し、考察をし、結論という流れがスムーズに描かれておる教科書ではないかとおもひます。

そして2者目ですが、実験に関しても非常に豊富で、例えば瓶の中のローソクに火を付けてふたをするとどうなるかといった、そのような実験が豊富であること、なおかつ実験の手順につままして写真を用いて説明をしておるという、そういった配慮がされておるしませう。

また、内容もあまり難しすぎない点もよいのではないかとおもひます。

2者目ですが、東京書籍でせう。問題、実験、まとめというプロセスが明確であると。また、「学ぶ前の私」というのが単元の前におありまして、さらに「学んだ後の私」というのが単元の後ろにおあり、こういった工夫がされておる点もよいのではないかと考察ておるしませう。

以上、今の段階では2者ですが、どちらかというとお大日本図書がよいと考察ておるしませう。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、お願いいしませう。

坂田委員 大日本図書につまましては、今の小林委員の印象と全く同じでせう。3年生から6年生まで方針が一貫しておいて、問題を立てる、若しくは課題を見つける、予想、計画、観察、実験をして、それを確認して発表すると、そういう流れが徹底されておると。これは理科にとっては最も基本的な流れだとお私はおもひておるしませう、これをシンプルに教ておるところが非常によいとおもひました。脱線的な紙面がほとんどなくて、ちょっとおもしろみに欠けるというところはあるかもしれませうけれども、しかし非常に流れもわかりやすいし、見た感じもわかりやすいかなとおもひました。

次に、教育出版でせうけれども、判も少し大きくて、ボリュームがあつて、何か印象としては教科書にみんな書ておるとおるか、かなり書き込まれた印象の教科書で、例えば人の体につまましては、とじ込みもあつて、なかなかすごい描写がされておるとおもひました。非常によい教科書なのでせうけれども、内容がやや多いかなというのが印象でせう。

それから学校図書は、全体の中でも印象的な教科書で、タイトルもサイエンスでせうけれども、内容も本格的でせうし、それから図なども本格的なものとなつておいて、非常に発展的な内

容の教科書であろうと思います。

どれもいいところはあるのですが、やはり基本のところをきちっと押さえているという意味で、私としては大日本図書を推したいと思います。

教育長 ありがとうございます。

では長島委員、お願いします。

長島委員 全部で5者ということになりますけれども、表現は多少違ってはおりますけれども、学習の進め方は問題から始まって、予想、計画、それから観察、実験、結果、まとめるというところでは各者共通しているのかなと思いました。理科というのはそういうものだということでもありますけど。

各者それぞれ、印象になりますけれども、東京書籍はA4判で多少判が大きくて情報量が多いという印象を受けました。

それから大日本図書につきましては、既にお話がありましたように、問題・予想、それから実験・観察、結果・考察、結論という、そのプロセスがシンプルに示されているという印象です。

それから学校図書は、表紙は科学者の写真ですし、裏表紙には科学者の言葉が示されていて、見ていて非常に興味深いものでした。

それから教育出版につきましては、「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」で、国語で学んだ力を生かそうとしているのが印象的でした。

それから啓林館につきましては、奥付の裏に「理科の考え方を働かせよう」と示されていて、いいと思ったのですが、ページの余白が少ないという印象を受けました。

いろいろ迷ったのですが、学習の進め方、その他総合的に判断して、大日本図書を推したいと考えております。

教育長 ありがとうございます。

それでは繁田委員、お願いします。

繁田委員 いずれも学習の流れがわかりやすく、使いやすいと思いました。最後の方には「確かめよう」「まとめよう」という形で、表現は多少違いますけれども、單元ごとに各者そういう発展的というのですか、あるいは補足的な問題もあって、あまり違いが私にはわからなかったというか、見出すことができませんでした。

その中で、強いて違いに気付きましたのは、やっぱり最近の内容のプログラミングに関しては、よりページが多いなという印象だったのは学校図書、それから大日本図書、それから啓林館。実験がやはり大事でございますけれども、その使い方に関してページを割いている印象が強かったのが東京書籍、大日本、学校図書でございます。今の違いから、強いてこ

れをということであれば、私の中では大日本図書がほんの半歩リードかなという印象でした。
以上です。

教育長 ありがとうございます。

私も先生方がおっしゃっていたように、各者とも問題を提示したり、最初に観察をして、そこから問題を把握して、その問題はどのように起こるのだろうかという予想を立てて観察なり実験なりをして、結果を導き出して、その結果から一定の法則だとか、あるいはまた現実わかったことにつなげていくということで、一連の流れを大変重視していることに感心いたしました。最初から正解ではなくて、正解に至るプロセスを子どもたちが話し合いながら身につけていくという意味では、各者とも工夫しているなと思いました。

とりわけ学校図書と啓林館は、観察を重視しているという印象がありました。理科離れが進んでいる中で、先生たちも理科をどうやって教えたらいいのかと、さまざまに工夫をしているのですけれども、さまざまに工夫がされた教科書を使って、子どもたちが理科をより一層好きになってもらえるような取り組みができればと思った次第です。

それでは、ほかに御意見等なければ、採決をさせていただきます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 ゼロですね。

続きまして、大日本図書がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 5名ですね。

それでは、5名全員大日本図書を推薦されましたので、「理科」については大日本図書の教科用図書を採択することに決定してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 異議がないものと認め、大日本図書を「理科」の教科書として採択いたします。

続きまして、教科「生活」、種目「生活」の審議、採決をいたします。

指導室長、「生活」について説明をお願いいたします。

指導室長 続きまして、教科「生活」、種目「生活」でございます。

「あたらしいせいかつ」、東京書籍でございます。内容につきましては、スタートカリキュラムでは児童が安心して学校生活を送れるよう具体例を示しております。表現では、「ポケットずかん」で実物大の動植物を掲載しております。

次に「たのしいせいかつ」、大日本図書でございます。内容につきましては、スタートカリキュラムに配慮したページがあり、特に「仲間づくり」を意識しております。表現では子

どもの活動にかかわる写真や絵が充実しております。

次に「みんなとまなぶ しょうがっこうせいかつ」、学校図書でございます。内容につきましては、スタートカリキュラムでは、子どもの不安に対処するページがございます。表現では、作業の説明が詳しく載っているイラストや写真がございます。

次に「せいかつ」、教育出版でございます。内容につきましては、スタートカリキュラムでは入学から徐々に学習へ移行しております。表現では、生き物や植物について考えさせる写真が多く載っております。

次に「せいかつ」、信州教育出版でございます。先ほど御説明をしたとおり、地域版でございますので、省かせていただきます。

続きまして「せいかつ」、光村図書出版でございます。内容につきましては、スタートカリキュラムでは「安心」「自信」「好奇心」を中心に展開しております。表現では、学びを記録する記録貼り替え可能な「ジャンプシール」がございます。

次に「せいかつ」、新興出版社啓林館でございます。内容につきましては、スタートカリキュラムでは、子どもや保護者の安心感に配慮してございます。表現では、植物を鉢植えで育てている写真が多くございます。

次に「わたしとせいかつ」、日本文教出版でございます。内容につきましては、スタートカリキュラムは、幼児期の豊かな体験を生かした内容となっております。表現では、子どもたちの活動の様子がわかる写真が掲載されております。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

教育長 「生活」について、審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 生活についてですが、まず1者目ということで、教育出版を推薦したいと思います。例えば目次のところを見ますと、1年間の学習の流れがどういう形で進むのかという見通しを見ることができる、そういった配慮がされているという点を挙げることができます。

2点目ですが、植物、あるいは生き物について、動物について考えさせられるような内容が多いということです。命の大切さということ、ここは非常に重要な部分ですので、その点この教科書は優れていると思われました。

各者とも非常に工夫をしているのですが、2者目として、東京書籍を挙げたいと思います。東京書籍ですが、幼稚園から小学校へのスタートカリキュラムという点が特に意識されていることが、最初に述べられておまして、また紙面としてもそのような構成になっているということを指摘しておきたいと思います。

今の段階では、私は教育出版かなと思っております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 各者とも基本的な構成は同じだと思います。一つ、大日本図書ですけれども、図や写真が印象的で、子どもたちをわくわくさせるつくりになっているところが優れていると思いました。ただ、割とシンプルなので、先生方の指導によるところが大という、そういった特徴があるかと思います。

東京書籍ですけれども、1年生の導入が全体の中でも最も丁寧な印象がありまして、まず学校になじむところから丁寧に子どもたちを引きつけているなという印象がします。

それから3番目、教育出版ですけれども、導入部の教科書ですので、そういったところの丁寧さというのは非常に徹底されていますし、それから下巻の36ページから、図書館の探検が書かれていますけれども、図書館のこういった探検のようなものを親しみやすく教えるというのは、区の方針に合っているかなと思いました。

あと光村図書ですが、上巻の方に「季節の贈り物」というコーナーがあって、112ページからだと思いますが、なかなか魅力的で、今の子どもたちにとっては、季節感が自然に身につかなくなってきた中で重要ですので、一番自然を意識されている教科書かなと思いました。

その中でちょっと迷ったのですけれども、現時点では教育出版を1番にしたいと思います。
教育長 ありがとうございます。

では長島委員、お願いします。

長島委員 生活というのは身近な具体的な活動とか体験を通して、いろいろな見方、考え方を育てていくことになるかと思いますが、どういう観点から選ぶかといういろいろな迷ったのですが、子どもたちが意欲的に学習活動を進めていくことの支援になるような教科書という観点で選べないかなとまずは考えました。そう考えてもなかなか難しいというのが正直なところでして、各者巻末にいろいろな図鑑、名称はさまざまですけれども図鑑とか、マップとか、手帳とか、そういうのを使って、いろいろ活用できるようにしているということでは共通していますし、写真やイラストも各者それぞれの工夫をされています。坂田委員のお話にもありましたように「図書館に行こう」とか、「図書館を探検しよう」ということを取り上げているものにも引かれましたし、それから啓林館でしたか、選定調査会の資料にあるように、スタートカリキュラムで安心・安全ということにすごく配慮を示しているなと思いました。

日本文教出版につきましては、全体的にちょっと文字が小さいかなという印象も受けました。ただ、正確に見比べるとそんなことはないのかもしれない。

それでいろいろ迷ったのですが、写真やイラストの使い方などの工夫ですね、そういったことから私としては、今の段階では大日本図書を推したいと思っております。

以上です。

教育長 それでは繁田委員、お願いします。

繁田委員 いずれも例えば季節の移り変わりということを書真とかイラストで非常に心地よくといますか、わかりやすくいずれの教科書も示していて、見ていて気持ちのよいものでした。子どもたちが気持ちよく学べるのではないかと思います。

その中で違いを探してみたのですが、例えば子どもたちの活動ということに注目してみると、私が強く印象を受けた教科書は大日本図書、それから光村図書、日本文教出版でした。それからやっぱり季節ということであれば、植物の成長について注目してみますと、それが印象深く示されていたのは東京書籍、大日本図書、教育出版でした。

なかなか動植物に触れる機会が少ない子どもたちは、実物大の東京書籍の図鑑はやっぱりいいなと、今はやりでもあるのかもしれませんが。海外であるとか、動物の図鑑なんかでも実物ばやりではあるのかもしれませんが、リアリティがあっという印象でした。

以上です。

教育長 それでは私です。生活科の授業では、子どもたちに生活習慣を身に付けさせたり、あるいはまた校内の生活にとけ込めるような形で、小学校1、2年生として身につけてほしいものをきっちり教育していく必要がある、そのための科目と思っています。そういった意味では先ほど来、先生方がおっしゃっていただいたように、小1カリキュラムにのっとった形で幼保から小学校への接続がすんなり円滑にできるような形を各者とも工夫していると思っただ次第です。

各者いろいろ実物大の写真ですとか、あるいはまた季節の写真を活用したりして、見やすくなっているのですが、私自身としては教育出版か大日本図書がいいのではないかなと思っただ次第です。ただ、大日本図書は、上でカメラを手づくりして学校を探検しようとしているのですが、小学校1年生でカメラを手づくりできるかどうか、若干それが気になりました。

ほかになれば採決に移らせていただきたいと思います。

それでは「生活」について、初めに東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

続きまして大日本図書がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

学校図書がよいと思われる方はいらっしゃいますか。

〔挙手〕

教育長 ゼロですね。

教育出版がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 3名ですね。

それでは、この時点で5名となりました。5名中3名の方が教育出版を推薦されました。教科「生活」、種目「生活」については、教育出版の教科用図書を採択としたいと存じますが、御異議等ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 異議なしとのことでございました。教科「生活」につきましては、教育出版の教科書を採択することといたします。

3時15分になりますけど、このまま続けさせていただいてよろしいですか。

続いて、教科「音楽」、種目「音楽」の審議に移らせていただきます。

初めに説明をお願いいたします。指導室長、どうぞ。

指導室長 続きまして、教科「音楽」、種目「音楽」でございます。

「小学校音楽」、教育出版でございます。内容につきましては、発展性のある鑑賞教材であり、鑑賞曲の曲数が多く取り入れられております。表現では、共通教材で歌詞の内容が児童の理解を支援する写真、資料等が掲載されております。学習活動につきましては、「音楽のもと」として図示したのものや、「音楽を表すいろいろな言葉」があり、感じ取ったことなどの対話の手がかりや言語活動の深まりを助けております。

次に「小学校の音楽」、教育芸術社でございます。内容につきましては、児童が無理なく取り組める音域や難易度に配慮して教材が配列されております。表現では、写真資料で演奏写真が取り入れられており、指導に活用しやすくなっております。学習活動につきましては、児童が年間の学習内容の見通しと振り返りを持つためのページがございます。学習のポイントにキャラクターが提示してございます。

以上でございます。よろしくをお願いいたします。

教育長 「音楽」につきまして、御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 音楽につきましては、音楽に親しめる、また楽しく学べるということを重視しながら

ら考えさせていただきました。

まず1者目、教育芸術社です。教育芸術社ですが、基本的に音楽に親しむ、音楽を楽しむことを重視した教科書構成になっているのではないかと思います。例えば6年生でオーケストラにホルストの「木星」という曲がありまして、まず音楽に親しむ、まず聞くことを重視しておりまして、細かい説明はしておりません。教科書の後ろの方にオーケストラの楽器の並び方という細かい説明があるのですが、最初の段階ではとにかく親しむ、楽しむことが重視されていると思われまます。

また、作曲ということで考えましても4年生の方を見ますと「旋律をつくりましょう」というのが60ページにあるのですが、比較的平易な内容になっていると言えるのではないかと思います。

2者目、教育出版ですが、教育芸術社に比べますと少し内容的に高度というか、詳しいといえると思います。例えばオーケストラに関して比較をすると、最初のページでオーケストラの配置であるとか、オーケストラの楽譜など詳しい内容があるのですが、しかしながら少し詳しく過ぎるかなという気もいたしました。

また、作曲、曲をつくることに関しても旋律をつくろう、あるいは音楽をつくろうという内容が、4年生で配置されていますが、内容的に少し難しい印象を受けました。

荒川区の子どもたちのことを考えたときには、教育芸術社が適切と思いました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 小林委員と全く同じです。教育芸術社の方は、全体として親しみやすく、それから「何々しましょう」とか、そういう感じの呼びかけ調のもので、主体的な学びにも配慮されていると思います。和の楽器についても全体としては平易にできているのですが、十分な記述がなされていると思います。荒川区の小学校では和の楽器を校長先生の裁量経費で買ったりしていますので、その辺も重要だと思いました。

教育出版の方は、ある種発達の、理論的というのでしょうか、そういった点をすごく重視された教科書だと思います。例えば5年生の56ページは、「ずれの音楽」とか、58ページは「変奏曲を楽しもう」とか、5年生ぐらいになってくると発展的な内容が多く出てくると、そういう印象です。

それで私も区の音楽教育の現場の様子を拝見すると、教育芸術社の方が合っているのではないかと考えました。

教育長 長島委員、お願いします。

長島委員 2者ですが、両者とも学習指導要領に示されている、表現、鑑賞についてよく工夫された内容になっているというのが大事と思いました。

教育出版につきましては、美しい写真が多用されていて、非常にいいと思ったのですが、全体として何か内容量が多いという印象を受けました。

使いやすさといいますか、そういったことから考えていくと、今の段階では教育芸術社の方を推したいなと考えております。

以上です。

教育長 繁田委員、お願いします。

繁田委員 どちらの教科書も興味深く拝見しまして、6年生が最後、国歌が取り上げられていて、そこで自分の国だけではなくてほかの国の国歌を聞くときにも敬意を表するべきだとか書いてあって、とてもいいなと。それは両方の教科書がそうでございますけれども。

個人的には、いい音楽をたくさん聞くというか、やっぱりそこにこだわりたいのですけれども、ずっと教科書を拝見させていただいて、また、ほかの委員の先生方の意見もお聞きすると、やっぱり難し過ぎて子どもたちがつまずいてはいけないだろうということで、学校で使う、児童が勉強する教科書としては、教育芸術社なのかなと感じました。

以上です。

教育長 先生方から今まで御発言いただいているように、私も2者を比較するならば、教育芸術社の方が、子どもたちが音楽の授業で、ピアノを習っているという子でなくても、すんなり入っていきやすいのではないかと思います。両者とも琴ですとか雅楽ですとか、日本の伝統音楽についてもきちんと取り上げていただいているという意味では、荒川区、伝統文化教育に大変力を入れていますが、それにはどちらも大丈夫かと思いました。

ただ、今、繁田委員おっしゃったように、教育芸術社の方は「君が代」をすべての学年で最終ページに大きく取り上げており、子どもたちが国歌を歌えるように指導するという、小学校音楽教育の上では指導しやすいのではないかと思います次第です。

それでは、特にほかに御意見がないようであれば、採決に移らせていただきます。

初めに、教育出版がよいと思われる方、手を挙げていただけますでしょうか。

〔挙手〕

教育長 ゼロですね。

次に、教育芸術社がいいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 5名ですね。

5名の方が教育芸術社を推薦されました。「音楽」の教科用図書として教育芸術社を採択

したいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 「音楽」につきましては、教育芸術社といたします。

「図画工作」までやって、それで少し休憩をとらせていただきたいと思います。

「図画工作」につきましては、指導室長から説明をお願いいたします。

指導室長 続きまして、教科「図画工作」、種目「図画工作」でございます。

「図画工作」、開隆堂出版でございます。内容につきましては、話し合い活動のポイントが示されており、友達とのかかわりについて触れられております。表現では、3つの名前が付いたキャラクターによって学習のめあてやヒントとなる内容が解説されております。学習活動では、主体的、対話的で深い学びに関する事例が見開きで紹介されております。

次に「図画工作」、日本文教出版でございます。内容では、めあて、安全面、片付けについて、レイアウトが統一されております。表現では、児童の活動の様子や例示された作品を紙面の半分以上の大きさの写真で掲載されております。学習活動につきましては、話し合い活動について、鑑賞・造形遊びの中で取り上げられております。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

教育長 「図画工作」につきましては、御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 2者ありますが、どちらも非常にいいので、困ってしまうところがありました。

開隆堂を見ますと、「くふうさん」、「ひらめきさん」、「こころさん」という意匠が示されておまして、この単元で何を学ぶかが非常に明確と言えるかと思います。また開隆堂ですが、写真にインパクトがありまして、自分もつくってみたいという創作意欲をかき立てられるものではないかと思いました。

日本文教出版に関しても、話し合い活動について重視された、そういった点がありまして、非常にいいと思いました。

甲乙つけがたいところがあるのですが、今の段階では開隆堂とっております。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 両者とも写真が非常に印象的でした。例えば何か工作をするといった場面の紹介なども非常にわかりやすくできていて、主体的、対話的な学びという面でも条件を両者とも満たしていると思います。

ちょっと優劣はなかなかつけがたいのですけれども、伝統のわざの取り上げ方とか、そういったものといろいろな分野の図画工作の領域のバランスというものを考えて、やや開隆堂

の方がいいかなと考えました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員、お願いします。

長島委員 小林委員と坂田委員がおっしゃったことと同じようなことを感じたわけですが、開隆堂につきましては、例えば1・2の上下にあります「ひらめきコーナー」、3年・4年の「絵から聞こえる音」とか、日本文教出版につきましては、3・4の上にある「ことばから形・色」とか、5・6年の下にある「音のする絵」とか、それぞれ印象的な単元といえますが、そういったのが目につきました。

巻末に開隆堂が「学びの資料」というのを用意していて、日本文教出版は「使ってみよう材料と用具」というのを用意していて、非常に工夫されているなと思いました。

都教委の調査資料ですと、表現の内容別題材数というのは両者大差はなくて、鑑賞の題材数、それから鑑賞学習用の資料のページ数・作品数等では日本文教出版が多いという結果になっております。

両者とも魅力的な単元構成になっていると思うのですが、写真とかイラストの用い方ですか、そういったところから開隆堂を推したいと考えております。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員、お願いします。

繁田委員 ほかの委員の先生方のおっしゃられたことと同じでございます。写真から受ける印象、あるいは話し合い活動の取り上げ方等、私も甲乙つけがたいところがありますけれども、教科書を見ても開隆堂の方が多少なりとも、少しでも児童が主体性を持って取り組むことができるようにというのを引き出そうと感じられましたので、どちらかといえば開隆堂ということでございます。

以上でございます。

教育長 ありがとうございます。

私自身、今回教科書を読み込むに当たって、図画工作だけではないのですけれども、すべての教科書に2次元コードというか、QRコードが付けられていて、それもスマホで確認しながら見ておりました。とりわけ、音楽とかこの図画工作は、単元とセットで映像資料だとか、動画も配信されているので、子どもたちは理解しやすいだろうなと思ったのですけれども、都教委に確認したところでは教科書採択の対象にはなっていませんよということでしたので、あえてそこら辺には触れないでお話しをさせていただきたいと思っています。

開隆堂については、共同活動を大変多く記載されています。図画工作は個人の作品を制作

することもあるし、クラス全体で、あるいはまたグループとして一つの作品をつくり上げるということも結構多いのではないかと思います。そういった意味では開隆堂さんのこの教科書内容は上手に活用できるのではないかと思った次第です。

また、先ほど長島先生もおっしゃられたように、日本文教出版は、教材も多く掲載しております。子どもたちにとってはわかりやすいのではないかと思いますけど、ちょっと多すぎてしまって、字が小さくなってしまっているというのがどうなのかなという気はしております。

そのほか御意見等ございますでしょうか。特になければ採決に移らせていただきます。

初めに「図画工作」、開隆堂出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 5名ですね。

「図画工作」については、5名全員が開隆堂出版を推薦されました。開隆堂出版の教科用図書を採択したいと思います。御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 「図画工作」につきましては、開隆堂とさせていただきます。

ここで10分間休憩とさせていただきます。3時40分から今度は「家庭」から採択を再開させていただきます。10分間の休憩といたします。

〔休憩〕

教育長 採択を再開させていただきます。

教科「家庭」、種目「家庭」の審議に入らせていただきます。御審議よろしくお願ひいたします。

最初に指導室長から説明をお願いします。

指導室長 続きまして、教科「家庭」、種目「家庭」でございます。

「新しい家庭」、東京書籍でございます。表現につきましては、包丁でジャガイモの皮をむく写真が右ききでも左ききでも適切に表現されております。Dマークがあるページでは、映像データを見ることができるようになっております。学習活動では、問題解決的な学習が3ステップで展開できるように示されております。2年間の学習の振り返りができるチェック表が見開きでございます。

次に「小学校わたしたちの家庭科」、開隆堂出版でございます。表現につきましては、QRコードで映像が活用できるようになっております。一方向から見たイラストになっており、ひと口メモ、用語の解説がございます。学習活動では、問題解決的な学習が3ステップで展開できるように示されております。各段階で「できたかなチェック」がございます。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

教育長 それでは、審議をよろしくお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 家庭につきましては、2者ということですが、まず東京書籍を推薦させていただきたいと思います。理由としましては、日常生活における応用と安全に配慮している点からです。例えばいろいろと紹介されているのですが、ジャガイモの皮のむき方というのがあります。包丁でジャガイモの芽をしっかりと取るのは重要ですが、これが実物大で明確に示されています。特に右ききとともに左ききの場合も、明確に示されておりまして、こういった配慮がされております。また包丁での皮のむき方に関して説明が丁寧だと思われました。

一方、開隆堂に関して同じような配慮がされています。やはり開隆堂でも包丁でジャガイモの皮をむくのは133ページにあるのですが、ただ写真を見るとジャガイモの皮のむき方が少し危なっかしいような印象があるのと、芽を取るという、この写真が小さいのが気になる点です。

両者ともにページの横に英語が入っているといった工夫があります。これで比べると東京書籍は、まず、英語の記載が前のページの横にありまして、めくると英語についての説明があります。英語を見ながら次のページをめくって、ああ、こういう意味だと理解できるようになっております。それに対して開隆堂は、英語の単語数が多いと思われ、そのような工夫がされています。やはり日常生活における安全面ということから考えると、東京書籍の方がいいかと思しますので、東京書籍を推薦したいと思います。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 両方とも基本的なところの条件を満たしていると思います。1点、これは私の視点から見ると、若干現代的な生活に関する記述が少なく、先ほど東京書籍の小林委員が御説明されたところはジャガイモの皮むきでしたけれども、東京書籍の133ページのところにピーラーがありますが、こういうものもそうでしょうし、それから現代の生活の特徴でいうと省人化、たしかこれは開隆堂の方でしたが、絵の中に「セルフレジ」と書いているのが1カ所ありましたが、どんどんセルフレジ化している。それから決済でいうとお金を使わずに電子決済がどんどん進む、これは政府の方針にもありますので。そういったところが両方ともちょっと弱いなと思いました。余計な話ですけど、多分子どもたちが大人になるころにはセルフレジが当たり前で、決済が電子的になっている。

今の二つについて比較をすると、東京書籍の方は判が大きいのですが、書いてある内容の量も多くて、家庭科を小学校で教える場合は専門の先生が教えるとは限りませんので、

そういう意味では東京書籍の方がそういう教え方の性格を考えるといいのではないかと思います。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員、どうぞ。

長島委員 2者ですけれども、東京書籍の方は最初に表紙をめくると「家庭科はあなたの生活をよりよく変えていく教科です」ともちろんメッセージなのですが、それが示されていて、続いてまためくっていくと学習の進め方がある。それから開隆堂の方は、表紙をめくるとこれまでの学習を家庭科につなげようということで、他の教科ともつながって、明示していて、学習の進め方があるというつくりになっております。

それから各単元につきましては、選定調査会の報告にもありましたように、3ステップで展開できるようになっているという点では共通しているのかなと思いました。

巻末は、東京書籍の方は2年間のまとめ。それから開隆堂の方は2年間の学習を振り返ってということで、それぞれ中学校の学習につなげていこうということで、どちらなのだろうということで、いろいろ考えたのですが、判形も影響していると思うのですが、東京書籍の方が先ほど情報量の話もありましたけど、見やすく使いやすいのかなという印象を強く受けました。

ということから、東京書籍を推したいと考えております。

教育長 ありがとうございます。

では繁田委員、お願いします。

繁田委員 やはり実際にやってみる教科、科目ですので、いかに道具を、あるいは調理器具を安全に使うかということはやっぱり大事だろうと私も思っていて、先ほど小林委員を初め委員の先生方が御指摘いただいたこと、まさにそのとおりだと感じています。それ以上特につけ加えるところはありません。それを重視しますとやはり東京書籍かなと感じています。

以上です。

教育長 では、私の意見ですが、私は実は開隆堂がいいかなと思ったところです。理由としては、学習のめあてが各単元の冒頭に掲示されていて、子どもたちが学びやすいですし、先ほどの坂田委員のお話にもありましたように、家庭科の専科の先生でなくても、その時間で何を子どもたちに教えるのかという目的がはっきりしているのではないかなと思った次第です。

また、「ひと口メモ」という形で補足説明がされていたり、住まい方とか、地域とか、献立の工夫とか、発展教材が充実していると思いました。2者の中では開隆堂がいいのではない

いかと思った次第です。

それでは、特にほかに意見がないようであれば、採決に移らせていただきます。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 4名ですね。ちなみに開隆堂は1人でした。

ということで4名の方が東京書籍を推薦されました。「家庭」については東京書籍の教科用図書を採択したいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 異議なしと認め、「家庭」につきましては東京書籍を採択することといたします。

続きまして、教科「体育」、種目「保健」の審議、採決をいたします。

初めに指導室長から説明をいたします。お願いします。

指導室長 続きまして、教科「体育」、種目「保健」でございます。

「新しい保健」、東京書籍でございます。内容につきましては、他教科との関連があったり、発展という形で示されております。表現では、写真が多く、パラリンピック選手のインタビューが載っていて興味を引きやすくなっております。

次に「たのしい保健」、大日本図書でございます。表現では、イラストが多くイメージしやすい、イラストの情報量が多いページもございます。学習活動につきましては、教科書の使い方が明記されており、問題解決型の学習ができるようになってございます。

次に「わたしたちの保健」、文教社でございます。表現では、「個人差」を「人によって違い」と言い換えており、表現が優しくなっております。学習活動につきましては、「話し合ってみよう」という記述があり、対話的学びの設定がございます。

次に「小学保健」、光文書院でございます。表現では、パラリンピック選手、オリンピック選手等のインタビューが載っていて、興味を引きやすくなっております。学習活動につきましては、すべての時間・単元が同じ学習の進め方になっております。

次に「みんなの保健」、学研教育みらいでございます。内容につきましては、詳しい説明や関連する情報が矢印を用いてわかりやすく示されております。学習活動では、1時間の学習活動の進め方が最初に示されており、問題解決的な学習活動が進めやすい工夫がございます。

以上でございます。よろしくをお願いいたします。

教育長 それでは、種目「保健」につきまして、御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 保健ですが、本当に各者、非常に工夫されておりまして、これも大変に選定に迷っ

た教科書でございます。その中で、幾つか挙げたいのですが、学研教育みらいを先に推薦させていただきたいと思います。内容が簡潔でよいというのが1点目です。そして2点目としては、見開き2ページで授業1こまでやるのに適しているということを指摘いたします。3点目としては、作業が明確に示されているという点です。

それともう1者挙げますと、東京書籍がいいかなと思いました。例えばインターネットですが、非常に問題もあり、インターネットによる犯罪被害などもあるのですが、インターネットなど児童に考えさせる内容が充実しております。また、5・6年生の中でも36ページの中で自殺を考えさせる内容が含まれております。

それと東京書籍は、ジェンダー平等への配慮があるようで、5・6年生の教科書の78ページを見ますと、男性の看護師であるとか、女性の警察官の写真が出てきている、そのような点があるかなと思いました。

総合的に考えますと、学研教育みらいかなと考えております。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 保健につきましては、授業時間数が限られているので、内容はどの発行者も十分だと思うのですが、やはり作りがシンプルで、授業を比較的コンパクトに進められるようなものが使い勝手がいいのではないかと考えました。

その点では、やはり学研教育みらいが一番よいのではないかと。具体的には、見開きには見開き2ページで授業が終わるようになっていて、より突っ込んだ内容もあるのですが、それは見開き2ページとは別に切り出されて編集されていまして、そういった形の方が使いやすいのではないかと思います。

また、絵や写真についても効果的に使われていまして、直感的な学びという意味でも優れていると考えました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員、お願いします。

長島委員 各者よく工夫されているなというのが第一印象です。いろいろ迷ったのですが、教科書の使い勝手、あるいは学習の進め方という観点から選択したいと考えました。

各者学習の進め方については、ステップに分けたりなど、それぞれ工夫されています。その中でも1番は光文書院を推したいなと思っておりまして、各単元「はじめに」から始まって、「話し合おう」「考えよう」「調べよう」、逆の場合もありまして「調べよう」「考えよう」、学んだことを「伝えよう」「広げよう」「深めよう」という形になっております。

学研教育みらいも各単元「つかむ」、それから「考える・調べる」「まとめる・深める」ということで、わかりやすいとは思いますが、総合的に考えまして、光文書院を推したいと思います。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員、お願いします。

繁田委員 それぞれ特色があって、興味深く拝見しました。東京書籍は、行動とか振る舞いを問う問題にかなり大きなスペースを割いているように感じました。考えさせる部分が多いなという印象です。

それから大日本図書は、話し合いを重視するところが特徴だろうと思います。うまく授業を行えば非常に効果的な学習ができるだろうと思います。

それから文教社は、表現が優しいという指摘がありますけれども、何か思いやりを重視したような作りだと思います。心の発達の中の「新しい自分にレベルアップ」というコーナーがあるので、そこは思いやりを学ぶところで、とても好ましい印象を受けました。また各ページの一番下の1行にさりげなくいいことが書いてあるなと思いました。

それから光文書院は、同じく心の発達の中の感情とか社会性とか思考力、ちょっと難しいといいますが、ややもすると複雑な概念を丁寧に説明して、ほかの教科書に比べると詳しく学べるなと思いました。

それから学研は、場面設定の問題がいいなと思いました。主要なせりふを選ぶような問いがあって、選択肢なのでこれは先生の実力にかかわらずという語弊がありますけれども、先生方が一定の水準で教えやすいなということでした。

そのほか一つ、オリンピック・パラリンピックの話で、ややもするとどうしてもパラリンピックというのは、今までは光と影の影の部分でしたけど、最近は注目が集まって、とても障がい者に注目が集まっているのはいいことだと思うのですが、それがちゃんと取り上げられて、印象に残っているのは東京書籍と光文書院かなと。

最終的に私の印象としては、やっぱり実際に医療とか福祉の現場では子どもたちの不安とか悩みの対処が問題になっていて、各者それを何らかの形で取り上げているのですが、呼吸法だとか、相談の仕方みたいなことなのですが、その部分の質というか、本当にいろいろな現場の経験を、情報を集めてページをつくったなという印象を私が受けたのは文教社でした。ただ、写真がちょっと古いなと、そういう印象でした。

教育長 私からも意見を述べさせていただきます。ただいま繁田委員からお話がありましたように小学校5、6年になってくると思春期になって、心の健康、心の悩みというものを子どもたち自身が受けとめ、そしてまた友達に対しても思いやりを持って接することが必要にな

ってきます。そうした心の健康について学習をするという意味でいえば、繁田委員御指摘のように文教社と学研みらい、この2者が大変充実している内容であると思った次第です。

一方で、坂田委員もおっしゃったように、保健の授業で時間をとって詳しくというのができにくい中で、子どもたちに簡潔に問題点を把握させ、わかりやすく解説するという意味でいえば、見開きでまとめている発行者の方が使いやすいかなと考えました。それがどこかというは大日本図書ですとか、光文書院ですとか、学研みらいという形になっています。

それらを総合し、心の健康でも取り上げて、なおかつ簡潔にそれぞれのテーマをまとめているという点で、学研みらいかなと思った次第です。

それでは、ほかになければ採決に移らせていただきます。教科「体育」、種目「保健」につきまして、順次挙手をお願いしたいと思います。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いします。

〔挙手〕

教育長 ゼロですね。

続きまして大日本図書がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 ゼロですね。

文教社がよいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

光文書院がいいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 1名。

学研教育みらいがいいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 3名ですね。

学研教育みらい3名の方が推しています。教科「体育」、種目「保健」につきましては、学研教育みらいの教科用図書を採択したいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 「保健」につきましては、学研教育みらいの教科用図書を採択することと決定いたします。

続きまして、教科「外国語」、種目「英語」の審議、採決に移らせていただきます。

初めに指導室長より御説明をお願いします。

指導室長 続きまして、教科「外国語」、種目「英語」でございます。

「NEW HORIZON」、東京書籍でございます。内容につきまして、別冊で2年間使用する絵辞典がジャンル別にまとめられております。各単元で聞く、話す、読む、書くの流れで構成されております。学習活動では、学びの見通しが持てるよう単元の最初にねらいを明記しております。

次に「Junior Sunshine」、開隆堂出版でございます。内容では、短時間学習や他教科との横断的な学習ができるよう設定してございます。表現につきましては、他教科と関連している箇所には、教科マーク表示がございました。学習活動では、プロジェクトが設定されていて、発展的な学習をすることができるようになっております。

次に「JUNIOR TOTAL ENGLISH」、学校図書でございます。内容につきましては、教科書の活動が15分ほどの活動に分かれ、短時間学習となっております。表現では、イラストが簡素化されており、人物描写に特徴がございました。学習活動では、プロジェクトタイムが5単元ごとに設定されており、発展的な学習をすることができます。

次に「CROWN Jr.」、三省堂でございます。内容につきましては、学ぶプロセスの「見える化」として、学期ごとに大単元が設定されております。表現では、日本語表記が多く、コミュニケーション活動「JUMP」では、流れの指示がすべて日本語で表記されております。学習活動について、各単元の最初のページには、1枚の絵の中に場面や状況などの幾つかの言葉に関する要素が含まれております。

次に「ONE WORLD Smiles」、教育出版でございます。内容につきましては、各単元の初めと終わりに、目標と振り返りが設定されております。表現では、イラストや写真が豊富に使用されております。学習活動について、「Let's Think」では、コミュニケーションが広がり、異文化理解につながるようになっております。

次に「Here We Go!」、光村図書出版でございます。内容につきましては、巻末に双六形式で1年間のCan-Doリストがございました。3単元ごとのレビューでは、世界12カ国の実際の小学生のメッセージが掲載されております。学習活動について、毎単元の最後には伝え合う活動が設定されてございます。

次に「Blue sky elementary」、新興出版社啓林館でございます。内容では、一つの単元がインプット、インテイク、アウトプットの3パターンとなっております。表現では、パラリンピック選手に関する資料が掲載されております。学習活動につきましては、他教科との関連した内容が組み込まれております。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

教育長 「英語」につきまして、御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 英語についてですが、各者非常に力を入れておりまして、この教科に関しましても本当に迷いました。その中で、まず挙げたいのが開隆堂です。1点目として、他教科と横断的な学習ができる設定となっております、英語だけではなくほかの教科とつなげながら学ぶことができるという点で、他者よりも優れていると思われました。2点目ですが、各ページにおける情報量が開隆堂は多い、それに伴いましてページ数も多いのですが、情報量が多いという点です。そして3点目、魅力的な内容が多く、例えば6年生で見ますと「思い出を絵本にしよう」という、今までの思い出を英語の絵本にしようといった内容もありまして、こういった点で非常に魅力的に思われました。

荒川区はこれまで英語教育を重視してきたという実績がありまして、ワールドスクールなどのサマーキャンプも実施してきております。英語の面では好奇心、意欲ともに高いことから、開隆堂は一つの候補としていいのではないかと思われました。ただ、若干難易度が高いのかもしれないということもございます。

2者目なのですが、東京書籍はどうかと思われました。東京書籍ですが、「Picture Dictionary」という付録がついていまして、これが英語学習に関して非常に便利と思われました。それと東京書籍ですが、5年生の内容で見ると「日本に暮らす私たち」、「日本のことを紹介しよう」という内容があります。また6年生ですが、「世界に生きる私たち」、「世界と日本」、「中学への扉」というコンセプトが示されておりまして、どちらかという日本から情報発信する、日本のことを英語で情報発信しよう、そういった姿勢が示されているように思うのです。これからやはり日本のことを英語で情報発信するのは大事になってくると思いますので、そういった点から東京書籍の教科書というのは推薦できるのではないかと思われました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 英語については、基本的に各者の教科書は能動的な学びということについて配慮をされていますので、その他の重要な点として中学校との接続と、それから英語は本格的には中学校で学びますので、小学校と中学校の学ぶ内容の役割分担みたいなもの、こういったところで教科書のつくりが少し分かれているのかなと思われました。

印象として総体的に二つのタイプがあると、私の分析ではそういうふうになっています。一つは中学校との接続を非常に重視したタイプの教科書で、わかりやすくいえば5年生から中1の学びを、中学校の教科書を少しずつやっていくというか、そういうタイプの教科書と、

それから小学校における英語というのを重視して、少し自由にいろいろ教室での体験をやってみようとか、自由な英語の学びになっているものと、大きく2種類あるかなと思います。

前者の方なのですが、前者の方は見た感じ割と落ちついたつくりになっていまして、代表例が一つは先ほど小林委員がおっしゃった開隆堂で、印象としては本当に5年生の初めから中学校の英語のスタートという感じで、普通の教科書という感じがしますが、確かに6年生まで通して見ると、難易度はそこそこ高いと思います。

もう一つ同じようなつくりの教科書が教育出版でして、教育出版は開隆堂よりも最初のスタートがやや平易で、6年生にかけて後で追いついていくというか、そんな印象を持っています。その分ちょっと文字量が少なく、読み物が少ないのですが、私はこれはつくりが割とシンプルでよいのではないかと思います。

その他、もう少し先ほど申し上げた別のタイプでいうと、東京書籍は中間的なもので、聞く、話す、読むということについて非常に流れを意識してつくられていて、少し自由度を持って子どもに興味を持たせるような学習内容になっているなと思います。

それから、後者の意味で非常に特徴的なのは三省堂で、読み物的なものも多くて、割と普通の中学校の英語などよりも恐らく能動的で、もっと体験的に学ばせると、そういう感じの教科書になっているなと思います。

光村図書も、三省堂に近いつくりではないかと思います。

どちらのタイプかということ、あと難易度ということで検討したのですが、私としては最初のタイプの、少し最初は平易で後から追いついていくタイプの教育出版がいいのではないかと考えました。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

長島委員、お願いします。

長島委員 非常に迷ったわけですが、注目したのは各単元、授業の進め方ということで、表現はいろいろですが、「Hop Step Jump」だったり、「Let's何々」という形、それぞれ工夫されていいなと思いました。あともう一つの観点は現在、使われている教材、「We Can」ですか、それとの類似といたら変ですが、違いみたいなことも少し意識しました。東京書籍と学校図書が少し違うのかなという印象を受けました、そういう点ではです。

最初、三省堂が使い方として「Hop Step Jump」ということで、ページを開いてもわかりやすいかなという感じを受けたのですが、Jumpはプレゼンテーションとなっていますけれども、その指示が全部日本語なのですね。それでちょっとどうかと考え

るに至りました。それから学校図書が15分ごとに活動すると構成されていて、それも魅力的だなと思ったのですけれども、機械的かなという感じを受けました。

各者日本の文化を紹介しようという、ちょっと表現は違っている発行者もあるのですが、日本の文化を紹介しようという単元を見比べてみて、実際にどれが進めやすいだろうかというところをみたのですが、私は、教育出版がいいのかなという結論に至りました。次が東京書籍かなという感じです。総合的に判断するとそういうことになりました。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員、お願いします。

繁田委員 英語教育の現場にいるわけではないので、とんちんかんなところがあるかもしれませんが、随分と英語の教育は読み書きから、聞き取りとか会話を重視するようになってきているのだらうと思いますけれども、やはりもっと海外で活躍できるような人に将来なってほしいというところであれば、もっと聞き取りとか会話が重視されてもいいのかなと。やはりコミュニケーションを重視した印象を受ける教科書に引かれました。東京書籍や開隆堂や教育出版や光村図書がそういう印象を受けました。それが一つです。

その一方で、勉強をするときにあまりいいことではないのしょうけれども、小学生も忙しいので、細切れ時間で勉強するということを考えると、短いところでぱっぱと勉強できるようなものが、真の意味での学習効果といっはいけないのしょうけれども、ある種効率がいいかなということで、「15分ごとの」というのはちょっと引かれるところがありました。そこで私の中ではずっと揺れながら、今に至っているところでございます。

教育長 ありがとうございます。それでは私から。先ほど繁田委員からありました学校図書は、モジュール学習にも対応した15分ずつの単元になっております。荒川区でもモジュール学習を取り入れている学校もありますので、そういった意味では有効に活用できるのではないかとも思いました。ただ、では単元が三つに分かれていないといけないのかというと、それは先生方の教え方によっては、モジュール学習でも通常の教科書で十分対応できるとも思います。

あとは具体的に申し上げますと、開隆堂はちょっと難しいかなというところがあります。荒川区は小学校1年生から英語をやっているのですけれども、小学校のうちに英語嫌いになってしまうと困ってしまいます。小学生のうちは英語は楽しく親しみを持てるような、小学校から英語をやっていて、外国の人と会っても気楽に話せるよという自信を持って中学校に上がって、中学校できちんと勉強して、より英語好きになってもらうというほうがいいのかなという気もしました。

私自身は、そういったことも考えつつ、イラストが多くて親しみやすい点、あるいはまた

振り返りが設定されていたり、あるいはまた問題が随所に掲載されて理解しているかどうかの確認ができるという意味では教育出版がいいと思いました。

ほかになれば「英語」について、採決をさせていただきたいと思います。

初めに、東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 ゼロですね。

続きまして、開隆堂出版がいいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 1名。

学校図書がいいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

三省堂がいいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 いらっしゃいませんね。

教育出版がいいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 3名。

この時点で5人の先生方の意見が出そろいました。教育出版を推された方が3名ですので、「英語」については教育出版の教科用図書を採択いたしたいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 「英語」につきましては教育出版とさせていただきます。

続きまして「特別の教科 道徳」、種目「道徳」の審議、採決をいたします。

指導室長、説明をお願いいたします。

指導室長 続きまして教科「特別の教科 道徳」、種目「道徳」でございます。

「新しい道徳」、東京書籍でございます。内容につきましては、巻末に学習の記録、振り返り、夏休み前、冬休み前、春休み前に振り返るページがございます。学習活動では、中学年以降の「考えるステップ」の中には自分の考えを書くだけでなく、どちらの立場かを考えさせる記述がございます。

次に「かがやけみらい 小学校道徳」、学校図書でございます。内容につきましては、教材と発問が別冊子に記述されており、書き込むことも可能でございます。学習活動について、

別冊子には自分の考えや友達の考えを記入する欄がございまして、友達との交流を重視しております。

次に「小学道徳 はばたこう明日へ」、教育出版でございまして。内容につきましては、日々の生活場面を取り上げた教材や新しい教材が多くございます。学習活動では、「気づく」「考える」「深める」「つなげる」の流れで示されてございます。

次に「道徳 きみがいちばんひかるとき」、光村図書出版でございまして。内容につきましては、学期ごとのまとまりで教材が構成されております。学習活動について、「考えよう・話し合おう」では、友達との考えを交流する場面が設定されております。

次に「小学道徳生きる力」、日本文教出版でございまして。内容につきましては、別冊で道徳ノートがございまして。学習活動について、道徳ノートは全教材に対応したページがあり、自由記述欄には友達の意見も記述でき、多面的、多角的な学習に役立つものとなっております。

次に「小学道徳 ゆたかな心」、光文書院でございまして。内容につきましては、重点項目、「生命の尊重」が複数単位時間続けて配置されております。学習活動では、教材文の前に主題と導入になる問いがあり、考える視点を持てるようになってございます。

次に「新・みんなの道徳」、学研教育みらいでございまして。内容では、「生命の尊さ」について他の内容項目と連続した3教材を複数時間扱いにして、多面的に考えることができるようになっております。学習活動では、本文より前に主題名を入れないことで特定の価値を押し付けず、児童の問題意識を重視しております。

次に「みんなで考え、話し合う 小学生の道徳 自分を見つめ、考える道徳ノート」、廣済堂あかつきでございまして。内容につきましては、発達段階に合わせて2から6の発展・補充教材がございまして。学習活動について、別冊の道徳ノートは内容項目の解説が記載され、理解を図れるようになっており、巻末に学習の記録を書くページがございまして。指導者の構想に応じて活用できます。

以上でございまして。よろしくお願ひいたします。

教育長 それでは「道徳」につきまして、御審議をお願いいたします。

小林委員、お願いします。

小林委員 道徳についてです。まず現行採用ということで光村図書です。光村図書は教材が国語的ということがありますが、しかしながら内容が深く、心に響く作品を取り上げているという、そういう優れた点があると思います。光村図書ですが、後ろに「考えよう、話し合おう」というのがついているのですが、これは少し問いが多いという気もいたします。先ほど国語が光村図書になりましたので、その意味からは他者でもいいのかと判断に迷ってい

るところです。

次ですが、日本文教出版です。これはなかなかよくできている教科書であると思います。作品の後に「考えてみよう」、また「見つめよう、生かそう」というのがありまして、これが簡潔ですので、むしろ考える余裕があるというか、考えさせる内容になっていると思います。その点から道徳に関しても考える道徳を意識してつくられている気がいたします。

それと同じような理由ですが、学校図書は、教科書の方に発問が書かれていません。教材にまず心向けさせようという点で、その点では優れている教科書かなと考えております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

坂田委員、お願いします。

坂田委員 道徳は、こういったものが道徳という教科の性格に合った、授業によいのかということ考えた上で選考に入りました。

それであまり発問が誘導的になりすぎると、道徳という学びからするとよくないのではないかと。ほかの教科に比べてあまり最初にこういうことだとか、こういう方向だとか、こういうことを考えないといけないということを言わずに、子どもたちに学んでもらうのが道徳の性格だと思います。

一方で、道徳に関しても若い先生が教えやすいかどうかと、そういう先生への支援ということも考える必要があるかと思えます。

その点でちょうどいいかなと思ったのは学校図書でして、学校図書は本体の方は非常にシンプルにできていて、本体というのは「気づき」ですけれども、一方で「学び」の方は若い先生の支援ができるようなガイドになっていて、「気づき」で教える先生は、それはそれでいいし、「学び」を使って教える先生は、それはそれでいいかなということで、今の条件に一番合っているのではないかと思いました。

次は光村図書ですけれども、小林先生がおっしゃったように教科書の内容が非常にいいということで引かれますし、それから発問の方も先ほども御指摘がありましたけれども、それでもまだ後ろにまとめてあって、少し控えめかなと思います。

あと学研教育みらいですけれども、学研教育みらいも印象的な作りになっていて、例えば6年生で28ページのマザーテレサだとか、36ページの「温かい行為が生まれるとき」とか、非常にインパクトのある題材を取り上げられていて魅力的だなと思いました。ただ、道徳は時間も限られていますので、もう少しシンプルな作り方の方が時間の範囲内で教えやすいかと思いました。

対照的なのが教育出版さんで、教えることが大分書き込まれている印象で、わかりやすい

のですが、先ほどの条件からすると少し丁寧過ぎているかなと思いました。

以上のようなことから、一番最初に挙げた学校図書を私としては1番にしたいと思います。
教育長 ありがとうございます。

長島委員、お願いします。

長島委員 初めに全体的なことといいますが、2点申し上げます。1点目は、道徳という教科上、現在の段階では読み物教材というのが多いわけですが、「金のおの」であるとか「銀の燭台」であるとか、「幸福な王子」、各者取り上げている共通の教材が多いという印象を受け、その場合に挿絵による違いが、ある意味興味深いということです。それから教材の出典が示されているところと、そうでないところがあって、日本文教出版と廣済堂あかつきの2者だと思いますが、出典が示されていません。出典が示されている場合、編集委員会作というのが多いという印象を受けまして、そのことを考えるとやはり読み物教材の場合には出典を示しておくほうがいいのではないかなと思いました。

2点目は、先ほどからも出ていた学校図書ですと「気づき」と「学び」という2分冊で、ノートの部分が分冊になっているのは、学校図書と日本文教出版と廣済堂あかつきの3者だったと思いますが、ここから評価といいますが、選定の理由になっていきますが、当初はノートが分冊になっているほうが、授業が進めやすいのではないかと考えました。ただ、学習指導要領を見ますと、道徳というのは「主として自分自身に関すること」から始まって、最後、「主として自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱うとなっております。こういった項目については読み物だったりさまざまな教材が用意されていて、自分で考えたり話し合いが行われたりするということになるわけですが、明確な言葉にならない思いとかもあるというか、大事にすべきではないかと考えると、ノートが分冊としてないほうがやっぱりいいのかなということが1点と、これまで2人の委員からお話がありましたように、学習の手引に当たる部分は少ないほうがいいのかなと考え、そういったほうが子どもたちが自由に考えたり話し合うことができるのではと考えました、理想かもしれませんが。

そういったことから判断して、光村図書か東京書籍かなと今は考えております。

以上です。

教育長 ありがとうございます。

繁田委員、お願いします。

繁田委員 委員の先生方がおっしゃったことと重なるところは省略させていただいて、私がそれぞれの教科書を拝見して違いを感じたのは、まず一つは、生命の尊重、尊さで、これに関して印象に残ったのは、もちろん昨今問題になっている自分の命の大切さであるとか、人の命の大切さみたいなことを道徳でも最重要として取り上げてほしいなという個人的な思いも

ありまして、その点で考えると光文書院と学研みらいでした。

それから、そのことに関して、いじめのことをどういうふうに取り上げているのかなというのをそれぞれ比較してみますと、私が非常に好ましい取り上げ方だという印象を持ったのは文教出版と光村図書と光文書院でした。そんな印象です。

教育長 それでは私からも一言、申し上げさせていただきます。道徳については2年前からというか、昨年度から教科として授業が始まって、その前年に教科書を選んだのですが、当時から比べてもさらに各者とも教科書の内容が充実しているなという印象を受けました。先ほど来、先生方がおっしゃっていただいているように、子どもたちに考えさせる道徳、そして大きな課題となっているいじめ問題も含めた形で、積極的に子どもたちの心に入っていくという内容になっているかなと思いました。

別冊といたしますか、テキストがあるほうがいいのか、ないほうがいいのかというのは、議論になるところでありますけれども、先生方の活用の仕方によるのかなと思っております。教科書とか別冊の発問に頼ったり、教科書のヒントに頼り過ぎてしまうと最初に正解がわかってしまって、子どもたちが考えないで済むという道徳の授業になってはいけません。先生方には教科書をうまく使って、子どもたち自身が考える、そして他人の意見も尊重するような、そういった子どもたちに育ってほしいと思った次第です。

それでは、議論は尽きないと思いますけれども、御意見が出そろったところで、採決に移らせていただきます。

教科「道徳」につきまして、初めに東京書籍がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 ゼロですね。

続きまして学校図書がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

教育出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 ゼロ名ですね。

光村図書出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 3名ですね。

日本文教出版がよいと思われる方、挙手をお願いいたします。

〔挙手〕

教育長 光文書院がいいと思われる方。

〔挙手〕

教育長 1名ですね。

この時点で5名の委員の皆様の推薦発行者が決まりました。5名中3名の教育委員が光村図書出版を推薦されましたので、「特別の教科 道徳」、種目「道徳」につきましては、光村図書出版の教科用図書を採択することにしたいと思いますが、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 それでは、そのようにいたします。

予定しておりました11教科13種目の採択が終了いたしました。改めて指導室長から採択結果につきまして、確認をさせていただきたいと思います。お願いします。

指導室長 それでは、結果について読み上げさせていただきます。

教科「国語」、種目「国語」、光村図書出版でございます。

教科「国語」、種目「書写」、光村図書出版でございます。

教科「社会」、種目「社会」、東京書籍でございます。

教科「社会」、種目「地図」、帝国書院でございます。

教科「算数」、種目「算数」、東京書籍でございます。

教科「理科」、種目「理科」、大日本図書でございます。

教科「生活」、種目「生活」、教育出版でございます。

教科「音楽」、種目「音楽」、教育芸術社でございます。

教科「図画工作」、種目「図画工作」、開隆堂出版でございます。

教科「家庭」、種目「家庭」、東京書籍でございます。

教科「体育」、種目「保健」、学研教育みらいでございます。

教科「外国語」、種目「英語」、教育出版でございます。

教科「特別の教科 道徳」、種目「道徳」、光村図書出版でございます。

以上でございます。

教育長 ただいま指導室長から、採択結果について読み上げさせていただきました。この件について御意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

採択結果につきましては、本委員会終了後に公開いたしますので、よろしく願いいたします。

以上で、議案第22号「令和2年度から使用する小学校教科用図書の採択について」の審

議は終了いたしました。

続きまして、議案第23号「令和2年度に使用する中学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

指導室長から議案の説明をいたします。

指導室長 それでは、議案第23号「令和2年度に使用する中学校教科用図書の採択について」御説明をいたします。

提案理由でございます。令和2年度荒川区立中学校で使用する教科用図書を採択するものでございます。

内容でございます。令和2年度荒川区立中学校で使用する教科用図書として、別紙資料1に基づき、教科種目ごとの教科用図書として選定し、採択するものでございます。

令和元年度は令和2年度に荒川区立中学校で使用いたします教科用図書の採択年度でございますが、教科書発行者から文部科学省への検定申請が1点もございませんでした。現在、中学校で使用しております教科用図書に変更が生じないことから、平成27年度に調査研究を行い、荒川区の子どもたちにとって一番適した中学校教科用図書を採択いたしました経緯からも、現在、使用しております中学校教科用図書を令和2年度も1年間使用するものでございます。

なお、平成31年度、いわゆる令和元年度から荒川区立中学校で使用する「特別の教科道徳」教科用図書につきましては、平成30年度に採択したものでございます。

別紙資料1を御覧ください。現在、荒川区立中学校で使用しております教科用図書の一覧でございます。なお、令和3年度から新学習指導要領実施となることから、令和2年度に中学校教科用図書を採択いたしまして、令和3年度から使用する予定でございます。

御説明は以上でございます。御審議よろしくお願いたします。

教育長 ただいまの説明につきまして、御意見、御質問等ございましたらお願いたします。

坂田委員、どうぞ。

坂田委員 確認ですが、現在、使用している教科書について、学校現場から特段これがちょっと支障があるとか、そういった声はないという理解でよろしいでしょうか。

教育長 指導室長、説明をお願いします。

指導室長 現段階におきまして、各学校、また荒川区には教科部会というのがございまして、こういった専門の先生方からの御意見というものも特段上がってございません。

以上でございます。

教育長 坂田委員、よろしいでしょうか。

坂田委員 はい。

教育長 ただいまの件も含めまして、御意見、御質問等ありましたらお願いいたします。よろしいですか。

〔「はい」の声あり〕

教育長 それでは、原案どおり採択することに御異議はございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 異議ないものと認めます。議案第23号「令和2年度に使用する中学校教科用図書の採択について」は原案のとおり採択することといたします。

続きまして、議案第24号「令和2年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」を議題といたします。

それでは、この件も指導室長、説明をお願いします。

指導室長 それでは、議案第24号「令和2年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」御説明をいたします。

提案理由でございます。令和2年度に荒川区立小学校及び中学校の特別支援学級で使用する一般図書を採択するものでございます。

内容でございます。令和2年度に荒川区小学校及び中学校の特別支援学級で使用する一般図書として、各学校が教科種目ごとに児童・生徒の実態に応じた教科用図書を調査研究し、その結果を受けて教育委員会において採択いたします。

別紙にて選定、採択いただきたい図書の教科、種目ごとの一覧をまとめました。小学校65冊、中学校32冊となります。令和2年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択については、小・中学校特別支援学級で特別な教育課程を編成する場合は、学校教育法附則第9条、同法施行規則第139条の規定によって、教科による当該学年用の文部科学省検定済みの教科用図書を使用することが適当でないときには、当該学校の設置者の定めるところにより、他の適切な教科用図書を使用することができるということになっております。特別支援学級で使用する教科用図書はいわゆる一般図書と呼ばれております。

本区におきましては、東京都教育委員会が作成しております資料を参考に、各学校が使用する一般図書を調査研究することとなっております。今回は令和2年度使用特別支援教育教科書調査研究資料、及び平成32年度用一般図書一覧等から、各学校が調査研究をいたしました。本区で使用する一般図書につきましても、都立特別支援学校で使用する図書と同じものを使用することにより、各特別支援学級の児童・生徒の状況に応じた適切な図書を採択することができると思います。

本日、令和2年度荒川区立小学校及び中学校特別支援学級で使用する一般図書の調査のまとめを報告いたします。

御審議よろしくお願いたします。

教育長 かなり多いですね。それでは、ただいま御説明及びこの資料も含めまして、御意見、御質問等ございましたらお願いたします。

では私から瀬下室長に確認ですけれども、新しく発行された図書等で子どもたちの発達段階に応じてこれがふさわしいというものについて、つけ加えているということでしょうか。

指導室長 そのとおりでございます、各学校で新しい部分につきましても研究、調査した上で、つけ加わっております。

教育長 先生方、いかがでしょうか、御意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

特に御意見等ないようでございます。原案のとおり採択することに御異議はございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ声あり〕

教育長 異議ないものと認めます。議案第24号「令和2年度に特別支援学級で使用する一般図書の採択について」は原案のとおり採択することといたします。

その他の報告事項ですけれども、8月から10月までの教育委員会関係行事につきましては、本日記付させていただいている資料のとおりとなっております。これに関して何か御意見、御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。また近くなりましたら改めて御案内をさせていただきます。

本日、予定しておりました案件は以上でございます。その他事務局から報告事項等ありませんでしょうか。

教育総務課長 日程等について変更はございません。そのほか特にございません。

以上です。

教育長 特にならざるようございますので、以上をもちまして、教育委員会第15回定例会を閉会とさせていただきます。本日は長時間にわたりありがとうございました。

傍聴者の方も長時間にわたり、どうもありがとうございました。

了